

# 山梨県内分布調査報告書

(平成25年1月～12月)

2014. 3

山梨県教育委員会

# 山梨県内分布調査報告書

(平成25年1月～12月)

2014. 3

山梨県教育委員会



# 序

本書は、平成25年1月から同年12月まで文化庁の補助金を得て実施した山梨県内分布調査の試掘・確認調査と立会調査の結果をまとめたものです。

今回対象となった事業数は40件です。この内、試掘・確認調査18件の事業内容は道路建設事業13件（国事業1件、県事業3件、中日本高速道路株式会社9件）、建物・施設建設事業4件（国事業1件、県事業3件）、公園整備事業1件（県事業のみ）、立会調査22件の事業内容は道路建設事業3件（県事業2件、中日本高速道路株式会社1件）、建物・施設建設事業15件（国事業1件、県事業14件）、公園整備事業1件（県事業のみ）、その他3件です。

試掘・確認調査では、中部横断自動車道建設（平林遺跡）、国道20号（大月バイパス）建設（堂地遺跡）、国道140号緊急道路整備修繕（大坪遺跡）の各事業予定地において遺構や遺物などを発見したことから事前に埋蔵文化財の適切な保存措置（保護層の確保あるいは発掘調査等）を行う必要があることが確認されました。このうち中部横断自動車道建設事業（平林遺跡）については、平成25年8月～平成26年2月まで発掘調査を実施しました。なお、中部横断自動車道建設事業では、用地が解決次第引き続き試掘・確認調査を進めることができ確認されています。

立会調査では、多くの調査において、遺構や遺物は確認されず工事を進めても差し支えない旨を報告していますが、県庁舎耐震化等整備事業では甲府城跡に関連する遺構・遺物が確認されており、その適切な保存措置（原則遺構保存・やむを得ない場合は最小限の発掘調査等）を実施しております。

なお、本報告書が文化財保護と開発事業との円滑な調整に役立つとともに、多くの方々の文化財に対する理解と保護の一助となれば幸いです。

末筆ながら、ご協力を賜った関係機関各位並びに直接調査にあたられた方々に厚く御礼申し上げます。

2014年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 八巻 與志夫



## 例　　言

- 1 本報告書は、山梨県教育委員会が文化庁の補助金を受けて、平成25年1月から同年12月までに山梨県埋蔵文化財センターが実施した、県内の試掘・確認調査並びに立会調査の結果をまとめた報告書である。
- 2 本報告書は、国・県・中日本高速道路株式会社の道路建設、建物建設事業、公園整備事業などの試掘・確認調査結果と国・県などの道路建設、建物建設、急傾斜地崩壊対策事業、公園整備事業などの立会調査結果を収録している。
- 3 調査結果の報告については、各事業の調査担当者が行い、その報告に基づき網倉邦生が編集した。なお、各調査担当者については、本文に明記した。
- 4 本報告書の出土品及び記録図面、記録写真などは、山梨県埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 5 試掘・確認調査作業員並びに整理作業員は次のとおりである。(敬称略・順序不同)  
中部横断自動車道建設事業(芦川栄、池田明宏、近藤正孝、木内雅人、佐野欣二、望月秋夫、梶原康博、片田徹治、片田善男、川口孝道、原田隆邦、阪本國廣、箭本公幸)、笛吹スマートインターチェンジ建設事業(岡和子、栗原礼子、土屋晴子)
- 6 本試掘・立会調査及び整理作業について、次の方々にご指導、ご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。(順不同)  
国土交通省甲府河川国道事務所、甲府地方検察庁、東京高等裁判所、中日本高速道路株式会社、山梨県リニア交通局(リニア推進課)、山梨県総務部(管財課)、山梨県産業労働部(産業人材課)、山梨県県土整備部(道路整備課、都市計画課、建築住宅課、營繕課)、山梨県中北建設事務所(道路課、都市整備課)、山梨県東建設事務所(用地課、道路課)、山梨県南建設事務所(河川砂防管理課)、山梨県中部横断自動車道推進事務所、山梨県警察本部、大月市教育委員会、甲州市教育委員会、甲府市教育委員会、都留市教育委員会、南部町教育委員会、韮崎市教育委員会、笛吹市教育委員会、北杜市教育委員会、南アルプス市教育委員会、身延町教育委員会

## 凡　　例

- 1 各事業の位置図は、1/25,000のスケールを基本としている。
- 2 図版縮尺については、図版内のスケールにより統一していない。
- 3 実測図及び写真は主要なものに限った。

# 本文目次

## 序

### 例言凡例

### 目次

## I 試掘・確認調査

県内分布調査全体事業位置図.....	1
1 中部横断自動車道建設事業（身延町和田字石倉沢地内）.....	2
2 中部横断自動車道建設事業（身延町帶金字泥の沢地内）《泥の沢A遺跡、泥の沢B遺跡》.....	3
3 中部横断自動車道建設事業（身延町和田字平林地内）.....	4
4 中部横断自動車道建設事業（身延町角内地内）.....	6
5 中部横断自動車道建設事業（南部町福士字矢島地内）.....	7
6 中部横断自動車道建設事業（南部町福士字平地内）.....	8
7 中部横断自動車道建設事業（身延町和田字平林地内）.....	9
8 中部横断自動車道建設事業（南部町福土地内）.....	10
9 笛吹スマートインターチェンジ建設事業.....	11
10 国道20号（大月バイパス）建設事業《堂地遺跡》.....	12
11 国道411号拡幅事業（勝沼地区）.....	14
12 国道140号緊急道路整備修繕事業《大坪遺跡》.....	15
13 国道141号絵見堂交差点改良事業《宮ノ前第4遺跡、宮木遺跡》.....	17
14 甲府地方検察庁別館解体及び新車庫建設事業《甲府城下町遺跡》.....	18
15 リニア見学センター整備事業.....	19
16 県営住宅御坂団地他駐車場整備事業.....	20
17 県営住宅八代団地駐車場整備事業《真道澤遺跡》.....	21
18 曾根丘陵公園（防災公園）整備事業《上の平遺跡他》.....	22

## II 立会調査

19 中部横断自動車道建設事業（身延町下山地内）.....	24
20 国道411号古府中環状浅原橋線改良事業《甲府城下町遺跡》.....	25
21 国道411号拡幅事業（勝沼地区）.....	27
22 甲府地方家庭裁判所都留支部仮庁舎建設事業《谷村城跡》.....	28
23 山梨県庁舎耐震化等整備事業（埋設配管工事）《甲府城跡》.....	29
24 山梨県庁舎耐震化等整備事業（埋設配管工事）《甲府城跡》.....	30
25 山梨県庁舎耐震化等整備事業（ガス管理設工事、G H P接続工事）《甲府城跡》.....	31
26 山梨県庁舎耐震化等整備事業（シンボルツリー植栽）《甲府城跡》.....	32
27 山梨県庁舎耐震化等整備事業（駐輪場地盤改良工事）《甲府城跡》.....	33
28 山梨県庁舎耐震化等整備事業（県庁東別館解体仮庁舎工事）《甲府城跡》.....	34
29 山梨県警察本部埋設配管増設事業《甲府城跡》.....	35
30 山梨県警察本部通信施設整備事業《甲府城跡》.....	36

31	舞鶴橋南立ち上げ管路復活工事事業《甲府城跡》	37
32	東部地域総合制高校建設事業《三ノ側遺跡》	38
33	東部地域総合制高校建設事業《三ノ側遺跡》	39
34	県立白根高等学校第二グラウンド人工芝張替事業	40
35	都留高等技術専門校校舎解体事業《沖大原遺跡》	41
36	県立北杜高等学校下水管及び下水樹改修事業《原町農業高校前遺跡》	42
37	急傾斜地崩壊対策事業（南部町福土地内）《火打石遺跡》	43
38	急傾斜地崩壊対策事業（南部町内船地内）《馬場道上遺跡》	44
39	曾根丘陵公園（防災公園）整備事業《上の平遺跡他》	45
40	銚子塚古墳隣接地民家建設	47





地図の番号は本文の事業番号に対応している

### 平成25年県内分布調査全体事業位置図

- 1.中部横断自動車道建設事業
- 2.中部横断自動車道建設事業《泥の沢A遺跡、泥の沢B遺跡》
- 3.中部横断自動車道建設事業
- 4.中部横断自動車道建設事業
- 5.中部横断自動車道建設事業
- 6.中部横断自動車道建設事業
- 7.中部横断自動車道建設事業
- 8.中部横断自動車道建設事業
- 9.笛吹スマートインターチェンジ建設事業
- 10.国道20号（大月バイパス）建設事業《堂地遺跡》
- 11.国道411号拡幅事業（勝沼地区）
- 12.国道140号緊急道路整備修繕事業《大坪遺跡》
- 13.国道141号絵見堂交差点改良事業《宮ノ前第4遺跡、宮木遺跡》
- 14.甲府地方検察庁別館解体及び新車庫建設事業《甲府城下町遺跡》
- 15.リニア見学センター整備事業
- 16.県営住宅御坂団地他駐車場整備事業
- 17.県営住宅八代団地駐車場整備事業《真道澤遺跡》
- 18.曾根丘陵公園（防災公園）整備事業《上の平遺跡他》
- 19.中部横断自動車道建設事業
- 20.国道411号古府中環状浅原線改良事業《甲府城下町遺跡》
- 21.国道411号拡幅事業（勝沼地区）
- 22.甲府地方家庭裁判所都留支部仮庁舎建設事業《谷村城跡》
- 23.山梨県庁舎耐震化等整備事業《埋設配管工事》《甲府城跡》
- 24.山梨県庁舎耐震化等整備事業《埋設配管工事》《甲府城跡》
- 25.山梨県庁舎耐震化等整備事業《ガス管理設工事、GHP接続工事》《甲府城跡》
- 26.山梨県庁舎耐震化等整備事業《シンボルツリー植栽工事》《甲府城跡》
- 27.山梨県庁舎耐震化等整備事業《駐輪場地盤改良工事》《甲府城跡》
- 28.山梨県庁舎耐震化等整備事業《県庁東別館解体仮団工事》《甲府城跡》
- 29.山梨県警察本部理設配管設設事業《甲府城跡》
- 30.山梨県警察本部通信施設整備事業《甲府城跡》
- 31.舞鶴橋南立ち上げ管路復活工事業《甲府城跡》
- 32.東部地域総合制高校建設事業《三ノ側遺跡》
- 33.東部地域総合制高校建設事業《三ノ側遺跡》
- 34.県立白根高等学校第二グラウンド人工芝張替事業
- 35.都留高等技術専門校校舎解体事業《沖大原遺跡》
- 36.県立北杜高等学校下水管及び下水井改修事業《原町農業高校前遺跡》
- 37.急傾斜地崩壊対策事業《火打石遺跡》
- 38.急傾斜地崩壊対策事業《馬場道上遺跡》
- 39.曾根丘陵公園（防災公園）整備事業《上の平遺跡他》
- 40.銚子塚古墳隣接地民家建築

# 1 中部横断自動車道建設事業 試掘（身延町和田字石倉沢地内）

所在地	身延町和田字石倉沢243外地内	調査期間	平成25年2月8日・12日
担当者	保坂和博、土橋寛仁	調査面積	42m <sup>2</sup>

## 調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業の本線建設に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する時雨沢川の両岸に広がる河岸段丘上にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現集落地帯として平坦地が形成されていることから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成24年4月19日及び12月6日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

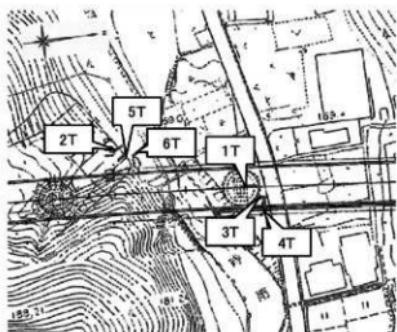
今回の試掘調査では、長さ約2.4～8.6m、幅約1.0～1.3m、深さ約0.6～1.9mのトレンチ（試掘溝）を6箇所（1T～6T）設定し、重機および人力による掘削後に遺構確認と土層観察を行った。

調査地は、時雨沢川の右岸（1・3・4トレンチ）と左岸（2・5・6トレンチ）の大きく2地点に分かれる。1・3・4トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、現地表下2.2m前後まで掘り下げたところ埋土層が確認された。2・5・6トレンチの土層堆積状況は、地表下20～30cm前後までは第1層（表土層：崩落土層）となり、その下層に第2層（埋土層）が堆積し、さらに2・5トレンチの山側にだけ第3層（地山層：砂質土層）の層順が確認された。これらの埋土層は、ボーリング調査結果（中部横断自動車道地質調査：平成18年実施）および地元の方からの聞き取り（調査地点付近の時雨沢川両岸には、現河床まで埋土層が堆積しているとのこと）と符合するものである。

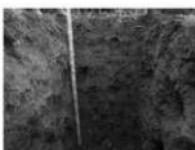
試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない判断される。



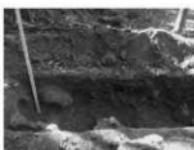
第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



5T土層堆積状況



6T土層堆積状況

## 2 中部横断自動車道建設事業 試掘（身延町帶金字泥の沢地内）《泥の沢A遺跡、泥の沢B遺跡》

所在地	身延町帶金字泥の沢1241外地内	調査期間	平成25年2月22日～3月1日
担当者	保坂和博、土橋寛仁	調査面積	239m <sup>2</sup>

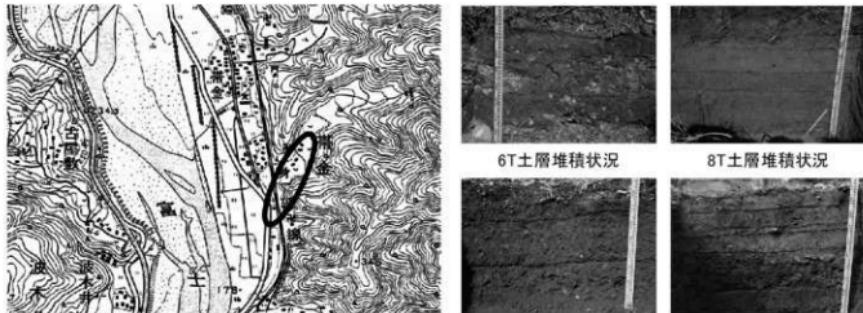
### 調査経緯及び事業内容と結果

事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する泥之沢川と薬師沢川に挟まれた複合扇状地にあり、JR身延線沿いの低地で標高186m前後、山側で標高224m前後を測る。予定地内の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である「泥の沢A遺跡（中・近世）、泥の沢B遺跡（中・近世）」の範囲に含まれることから試掘調査を実施した。

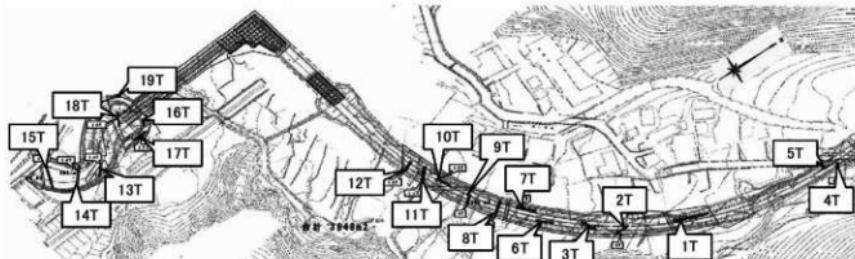
今回の試掘調査では、工事用道路建設に係る借地契約が完了した用地内に長さ約1.0～15.0m、幅約1.0～1.8m、深さ約0.5～1.5mのトレーナーを19箇所(1T～19T)設定し、重機による掘削後に人力により遺構確認と土層観察を行った。調査地は、山側の緩斜面(1T～12T)、JR身延線沿いの低地(13T～19T)の大きく2地点に分かれる。1～6トレーナーでは、地表下0.4m前後までは表土層(第1層)、旧耕作土層(畑地:第2層)が堆積し、その直下から河川堆積物層(第3層～第5層)が確認された。7～12トレーナーでは、地表下0.3m前後までは表土層(第1層)、旧耕作土層(水田:第2層、床土:第3層)が堆積し、その直下から河川堆積物層(第4層～第10層)が確認された。13～15トレーナーでは、地表下0.4～0.8m前後までは表土層(第1層)、搅乱層(第2層)、耕作土層(第3層)が堆積し、その下層は河川堆積層となる砂礫層(第4層～第5層)が確認された。16～19トレーナーでは、地表下0.4m前後までは表土層(畑地:第1層)、旧耕作土層(水田:第2層、床土:第3層)が堆積し、その直下から河川堆積物層(第4層～第8層)が確認された。

試掘調査の結果、いずれのトレーナーからも遺構を確認することはできなかった。7トレーナー内の河川堆積層から近世の土器片1点が出土しているが、流れ込みの遺物と判断される。以上のことから、今回の試掘調査地点においては、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えないと判断される。

なお、今回の試掘対象地内では試掘調査を実施できなかった地点(未契約地)は、今後改めて協議の上、埋蔵文化財保護の対応を図る必要がある。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレーナー配置図

### 3 中部横断自動車道建設事業 試掘（身延町和田字平林地内）

所在地	身延町和田字平林576-140外地内	調査期間	平成25年3月4日～18日
担当者	保坂和博、土橋寛仁	調査面積	338.3m <sup>2</sup>

#### 調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に係る本線及び工事用道路建設に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する南北両端に位置する沢に挟まれた台地上にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、JR身延線沿いの低部で標高200m前後、山側で標高220m前後を測る西向き緩傾斜面が広範囲に形成されていることから、遺跡の広がりや遺構・遺物の有無を把握するため、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、中部横断自動車道推進事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成25年1月30日及び3月13日に実施した現地協議に基づき試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、用地の取得された範囲内に長さ約1.0～5.0m、幅約1.0m、深さ約0.4～0.85mのトレンチを58箇所(1T～58T)設定し、人力による掘削後に遺構確認と土層観察を行った。

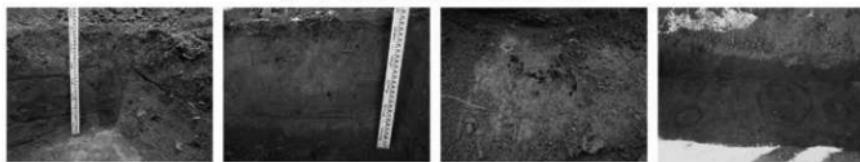
各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、第1層（表土層：黒褐色土、腐植土）、第2層（にぶい黄褐色土遺物包含層）、第3層（褐色土：遺構確認面）が確認された。また、深掘りをした1～8トレンチでは、第3層下に第4層（黄褐色土）、第5層（地山層：黄褐色土【礫を多量に含む】）が確認され、台地縁辺に位置する10・11・17・44・45・47・48・57・58トレンチでは、第2層下に第5層あるいは第3層中に地山の礫が混じる堆積状況が確認された。

試掘調査の結果、各トレンチから縄文時代前期から中期初頭に比定される遺物（土器・石器片）や住居跡、土坑、ピットなどが確認された。以上のことから、今回の試掘調査地点においては、遺跡が新たに発見されたため、工事に着手する前に発掘調査による記録保存などの埋蔵文化財の保護措置が必要と判断される。

なお、今回試掘調査が出来なかった地点については、今後改めて協議の上、試掘調査を実施する必要がある。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図

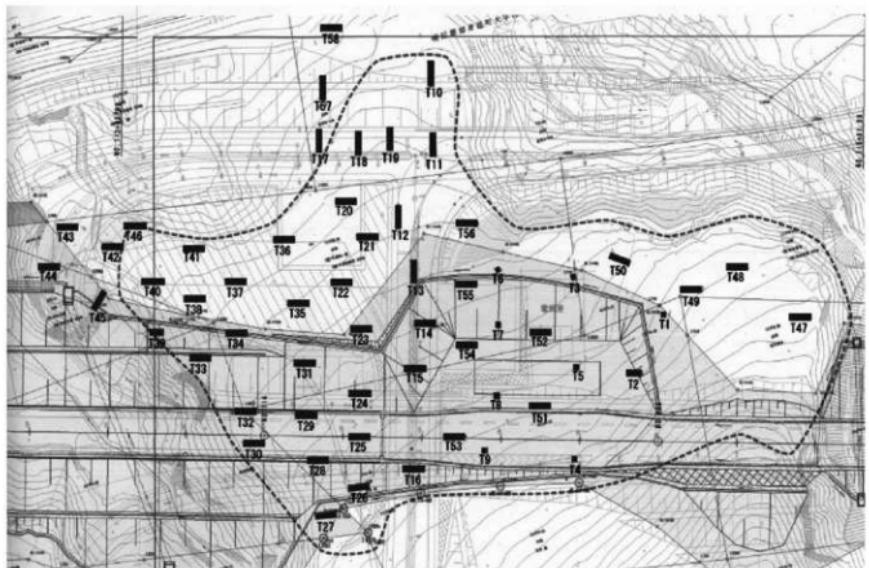
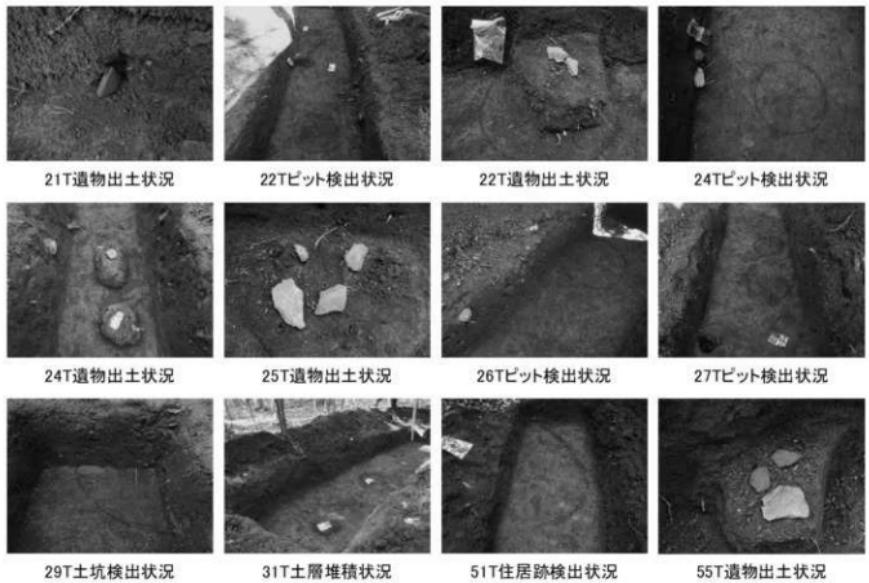


5Tピット検出状況

13T土層堆積状況

15T炭化材検出状況

21T住居跡検出状況



第2図 試掘トレンチ配置図

## 4 中部横断自動車道建設事業 試掘（身延町角打地内）

所在地	身延町角打地内	調査期間	平成25年3月8日
担当者	保坂和博、土橋寛仁	調査面積	8m <sup>2</sup>

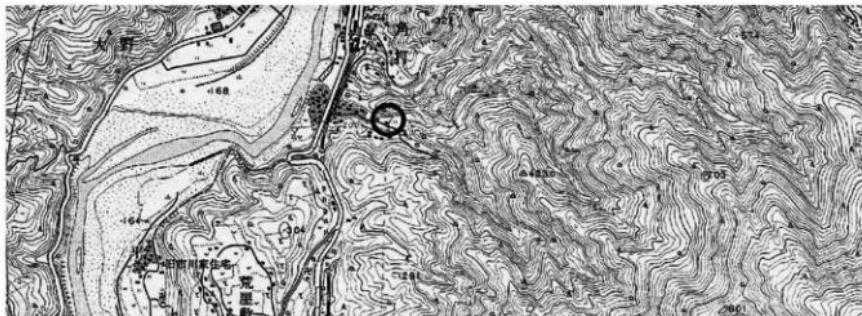
### 調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業の本線建設に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する南沢川の右岸に広がる河岸段丘上にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現集落地帯として平坦地が形成されていることから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成24年4月19日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約2.0～3.0m、幅約1.0m、深さ約0.4～0.7mのトレンチを3箇所(1T～3T)設定し、人力による掘削後に遺構確認と土層観察を行った。

1トレンチでは、現地表下0.7m前後まで掘り下げたところ埋土層(第1層～第2層)が堆積し、その下層に第3層(地山層：河川砂礫堆積層)が確認された。2～3トレンチは、地表下10cm前後までは第1層(表土層：畑地)となり、その下層に3トレンチで第2層(旧水田層)が堆積していた。また、2～3トレンチで第3層(旧水田床土層)、第4層(地山層：砂質土層)の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えないと判断される。



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



3T土層堆積状況



調査区遠景

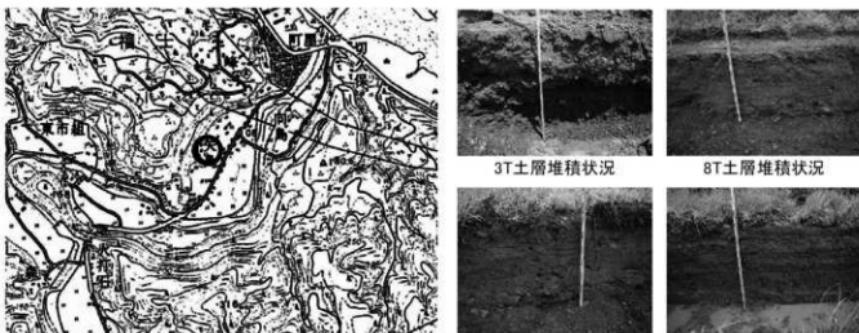
## 5 中部横断自動車道建設事業 試掘（南部町福士字矢島地内）

所在地	南部町福士字矢島5271外地内	調査期間	平成25年6月17日・18日・24日～27日
担当者	正木季洋、青木真一	調査面積	185m <sup>2</sup>

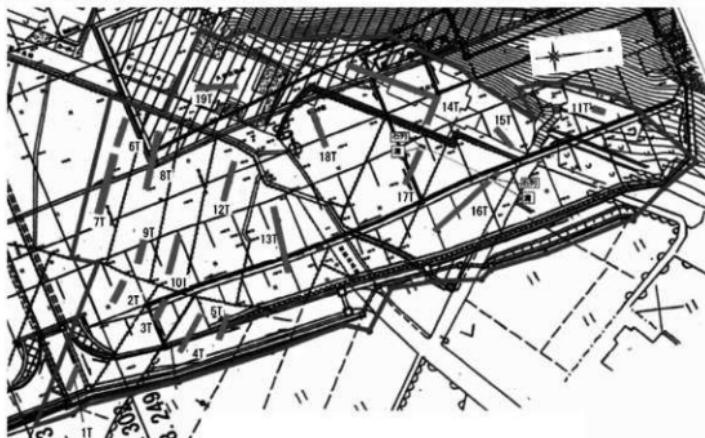
### 調査経緯及び事業内容と結果

今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ2.4～24.3m、幅約1.0m、深さ約0.4～1.7mのトレンチを19箇所(1T～19T)設定し、重機及び人力によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。各トレンチの土層堆積状況は、1～5・9・10・13Tと7・8・12・16・17Tの南側では地表下約30cm前後までは現代の水田の耕作土や床土が堆積し、その直下から氾濫による砂礫層が確認され、6・8・11・14・18・19Tと7・8・12・16・17Tの北側では地表下約5cm～80cmまでは水田耕作土及び床土や理土が堆積し、下層から地山層(第5層～第8層)が確認された。16・17T北側の水田床土層直下において溝と石列が確認した。溝中からは近世の陶磁器が出土しているが、水田床土層直下の近代(明治期の陶磁器)を含む層上面より掘り込まれており、石列・溝と共に近代以降のものと考えられる。その他の地点においては遺構・遺物は確認されていない。

試掘調査の結果、16・17Tにおいて近代以降の石列・溝を確認したが山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項第3条により、保護措置の必要はないと考えられ、工事に着手しても差し支えないと判断される。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図

## 6 中部横断自動車道建設事業 試掘（南部町福士字平地内）

所在地	南部町福士字平3289外地内	調査期間	平成25年6月27日
担当者	正木季洋、青木真一	調査面積	29m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、西側の山地から東流し富士川へ合流する沢の左岸に広がる氾濫原にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現集落地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成25年5月16日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

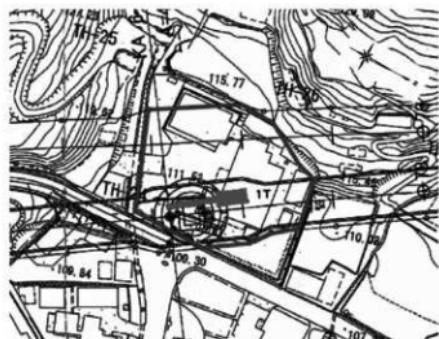
今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ約17.3m、幅約1.0～3.0m、深さ約1.0～1.3mのトレーニチを1箇所(1T)設定し、重機により掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

土層堆積状況は、地表下約60～70cmまでは造成盛土層・建物基礎取壊後の埋土（第1層～第4層）が堆積し、その直下から地山層が確認された。また、湧水によるグライ化が第5層に確認された。

試掘調査の結果、遺物や遺構は確認できず、埋蔵文化財はないと考えられたため、今回の試掘調査範囲においては、工事に着手しても差し支えないと判断される。



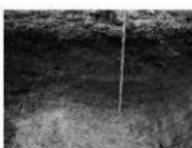
第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレーニチ配置図



1T完掘状況



1T南側土層堆積状況



1T中央部土層堆積状況



1T北側土層堆積状況

## 7 中部横断自動車道建設事業 試掘（身延町和田字平林地内）

所在地	身延町和田字平林568外地内	調査期間	平成25年7月2日～26日
担当者	正木季洋、青木真一	調査面積	211m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地は、試掘調査(4頁参照)により発見登録された平林遺跡の隣接地にあり、東側の山地から西流し富士川へ合流する南北両端に位置する沢に挟まれた台地上に西向き緩傾斜面が広範囲に形成されていることから、埋蔵文化財の有無を把握するための試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、用地の取得された範囲内に長さ約2.0～10.0m、幅約1.0m、深さ約0.2～0.7mのトレンチを47箇所(1T～47T)設定し、人力による掘削後に遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に第1層(表土層:黒褐色土、腐植土)、第2層(暗褐色土)、第3層(褐色土)が確認された。また、深掘りをした1～3・5～7Tでは、第3層下に第4層(褐色土:礫を多量に含む)が、尾根状地形上に位置する4・23・24Tや畑地等利用のためと思われる削平を受けた26・27・47Tでは第1層下に第4層が、斜面上部や尾根上に位置する9・15・30・31Tや、沢状地形上に位置する21・22Tでは、第1～3層中に地山の縞が混じる堆積状況が確認された。

試掘調査の結果、8・45Tから平安時代に比定される土器片2点と33Tから縄文時代に比定される土器片が出土した以外は、いずれのトレンチからも遺構は確認されなかった。以上のことから、今回の試掘調査地点においては、埋蔵文化財はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない認められるが、8・45T周辺範囲においては、遺跡の不時発見も想定されることから、工事掘削時に埋蔵文化財職員の立会が必要である。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



2T土層堆積状況



8T遺物出土状況



24T土層堆積状況



45T土層堆積状況



第2図 試掘トレンチ配置図

## 8 中部横断自動車道建設事業 試掘（南部町福土地内）

所在地	南部町福士696	調査期間	平成25年8月5日～6日
担当者	村石眞澄、由井正昭	調査面積	64m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

本事業は大規模開発であるため、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターの協議により、工事施工前に試掘を実施する予定となっていた。しかし今年度に入り、工事によって大規模に掘削されていることを現地で確認した。国土交通省の工事が7月末で一段落したため、試掘を実施した。

試掘調査は、切り通し状に大きく深く掘削された部分を除き、地形に応じて5ヶ所にトレーナーを設定し埋蔵文化財の確認を行なった。1・2トレーナーは碎石を取り除くと、山側は盛土で、谷側は明黄褐色土の地山となっており、遺構や遺物包含層となる可能性がある堆積層は確認できなかった。3・4トレーナーは地表層の根などが繁茂した層を取り除くと、明黄褐色土の地山となっており、遺構や遺物包含層となる可能性がある堆積層は確認できなかった。5トレーナーは、碎石を取り除くと、明黄褐色土の地山となっており、遺構や遺物包含層となる可能性がある堆積層は確認できなかった。

今回の試掘調査では、遺構・遺物は確認できなかった。先年度からの協議により試掘調査の対象地になっていた範囲に対して、埋蔵文化財調査を行なう前に大規模に掘削されたことはまさに遺憾である。今後はこのような事態を招かないように、その原因を確認し、再発防止の措置をとる必要がある。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレーナー配置図



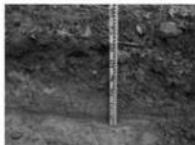
工事施工状況



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



3T土層堆積状況

## 9 笛吹スマートインターチェンジ建設事業 試掘

所在地	笛吹市八代町南地内	調査期間	平成25年12月9日～12日
担当者	田口明子	調査面積	20m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

報告の試掘対象地は、中央自動車道の笛吹スマートインターチェンジ建設事業の一部であり、先行して工事に入る部分について協議に基づき試掘調査を実施した。なお、本事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である身洗沢遺跡があるため、来年度に本格的な試掘調査及びそれに基づいた発掘調査を行う予定である。

試掘調査は西から1～4のトレンチを設定し、堆積層を確認しながら重機により掘削を行ないその後人力による精査を行った。1トレンチでは、1.表土(現耕作土等)が約0.8m堆積し、その下層に2.黄褐色砂層、3.黒褐色シルト層、4.黒色シルト層、5.黒褐色砂層、6.黒色砂質土層、7.黒褐色砂層、8.黒褐色砂質土層、9.暗灰黄砂層、10.オリーープ黒シルト層、11.黒色シルト層、12.黒褐色砂層、13.にぶい黄橙砂礫層となる。2～12層中では4・6・8層がやや安定した層であり、中でも6層が土壤化していた時期があると思われる。地山は13層の砂礫層で色調は異なるが2～4トレンチでもみることができた。4層上面から湧水があるが量は少ない。また地山である砂礫層からも湧水がある。遺構・遺物は確認されなかった。

2トレンチでは、1.表土(現耕作土)が約0.3m堆積し、2.黒色土層、3.黒褐色砂礫層、4.灰黄褐色砂礫層、5.褐色砂層、6.灰黄褐色砂層、7.暗灰黄砂層、8.黒褐色シルト層、9・10.暗灰黄砂礫層となる。2層は旧耕作土と思われ、3・4層の砂礫層は人為的な盛土の可能性が考えられる。9・10層は地山である。表土から摩耗した古代の土師器片1点が出土した。他に遺構・遺物は発見されなかった。

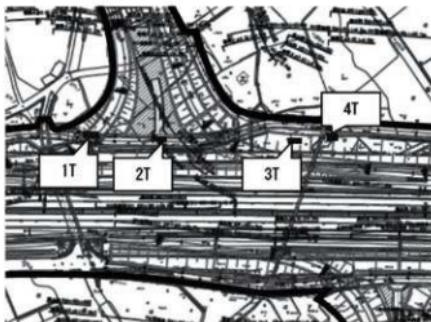
3トレンチの土層堆積は、1～4層が現耕作土を含む人為的な盛土で約1m堆積している。その下層に穴あき土管を使用した暗渠排水を伴う昭和期の水田耕作土である5層と水田面を構成する6層がある。7・8層は自然堆積層で地山である。

4トレンチを設定した畑は東側の畑より約1m高く、西側の畑より約0.4m高い。1層は現耕作土を含む盛土で約2.4m堆積している。その下層は地山である砂礫層が確認された。盛土の崩落が激しかったためセクション図をとれ柱状図とした。3・4トレンチからの出土遺物はなし。

以上のことから、今回の試掘調査対象地では発掘調査不要と考えられる。また2トレンチと3トレンチの間についても同様な地層の堆積が考えられるため、試掘調査も含めて不要と判断される。



第1図 笛吹スマートインターチェンジ建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図

## 10 国道20号（大月バイパス）建設事業 試掘 《堂地遺跡》

所在地	大月市花咲字堂地1271外	調査期間	平成25年 7月22日～25日
担当者	村石眞澄、由井正昭	調査面積	62m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

報告の試掘対象地は、桂川西側の大月バイパス建設事業の橋梁地区にあたり、大規模開発であるために協議に基づき試掘調査を実施した。

今回の対象範囲は、大月市立病院の臨時駐車場として使用されている桂川沿いの土地である。調査手順としては、試掘終了後も引き続き臨時駐車場として利用するため、敷かれている砕石を一旦脇へ除去し、試掘調査の終了後に、砕石を戻し敷き均し駐車場に復旧した。

試掘調査は桂川沿いの河岸段丘崖に面した地点に東から1～5のトレーンチを設定し、スコップ・ジョレンにより堆積層を確認しながら重機により掘削を行なった。1・2トレーンチの基本的な土層は、大月バイパス建設事業のために解体撤去された家屋に関連する搅乱・盛土層があり、その下に昭和30～40年代の宅地造成以前のぶい黄褐色土の水田耕土が堆積し、その下に遺物包含層である黒褐色土層が厚く堆積し、地山は黄褐色土層で構成されている。とくに注目されるのは、この場所が桂川の河床面からはるかに高い河岸段丘上に位置し、水田開発は本格的な用水路により開かれた江戸時代後期～近代の水田と思われるが、その水田耕土は安定して広がっており、宅地造成の影響を大きく受けておらず、その下部にあたる黒褐色土の遺物包含層は層厚が1～2mを測り非常に遺存状態がよい。

1トレーンチの東端では部分的であるが、平面が60×100cm以上の規模をもつ掘り込まれた遺構を確認した。覆土には地山と類似した黄褐色土のブロックを含んでおり、単純な自然堆積での埋没ではなく、崩落や人為的に埋め戻されたやや特殊な遺構と思われる。確認した部分はごく一部であるがその性格を強いて想定すれば、獣を捕る落とし穴などが考えられる。これに伴う出土遺物は確認できなかった。

2トレーンチ東端では、下層の地山の黄褐色土層直上の黒褐色土層中からは縄文土器（中期中葉〔猪沢式〕）1片が出土した。また、2トレーンチ中央部の北壁からは、打製石斧1点と縄文土器（前期後半〔諸磯式〕1、中期中葉〔猪沢式〕1）2点を確認した。

3トレーンチの土層堆積は、砕石、搅乱層の下が黒褐色土層、その下が地山の黄褐色土層となり、1・2トレーンチに広がっていた水田耕土は確認できなかった。現在の地表面は3トレーンチ付近と1・2トレーンチ付近では、路地を隔てるものの大きな差はないが、旧地形と水田耕作など昭和30～40年代の宅地造成以前の土地利用形態は大きくなっていたことが推測される。3トレーンチは出土遺物はなし。

4・5トレーンチでは、1～3トレーンチで確認した黒褐色土の包含層がなく、褐色土や明黄褐色土の地山であり、灰白岩片を混入した褐色土層などがその上に堆積している。1～3トレーンチが河岸段丘の平坦な土地とは大きくなり、丘陵部で山側を削り込み、谷側に掘削土を盛って平坦面を作り出した造成が行なわれた土地である。4・5トレーンチからの出土遺物はなし。

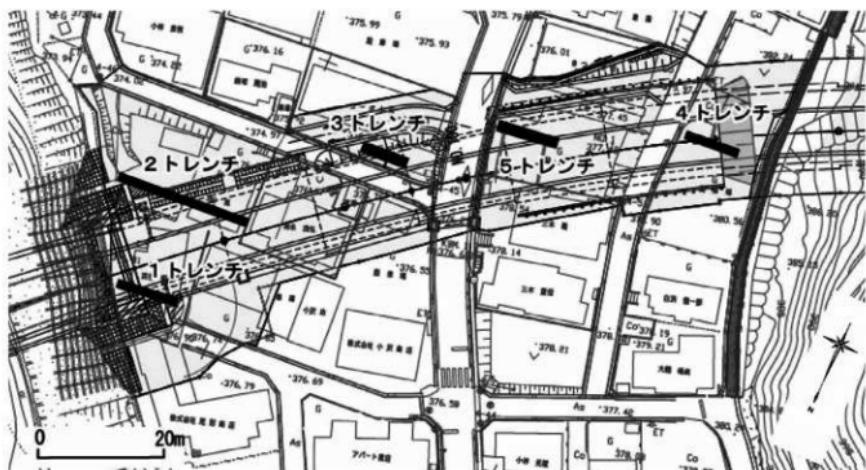
試掘調査の結果、1トレーンチでは人為的に掘り込まれた遺構、2トレーンチでは縄文土器片3点（前期後半〔諸磯式〕1片、中期中葉〔猪沢式〕2片）、打製石斧（縄文時代）1点が出土した。また3トレーンチでは、1・2トレーンチで確認した黒褐色土の遺物包含層が遺存しており、縄文時代の遺構が広がっていると想定される。

これに対し、4・5トレーンチを設定した丘陵部分は、宅地造成により包含層が既に削平されて失われていると考えられる。

以上のことから、今回の試掘調査対象地では、1～3トレーンチを中心とする部分については本発掘調査が必要である。4・5トレーンチを設定した区画については調査不要と考えられる。



第1図 国道20号（大月バイパス）建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T 土層堆積状況

2T 土層堆積状況

2T 遺物出土状況

5T 土層堆積状況

## 11 国道411号拡幅事業（勝沼地区） 試掘

所在地	甲州市勝沼町休息1551外	調査期間	平成25年5月27日～28日・6月12日
担当者	村石眞澄、由井正昭	調査面積	73m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、国道411号（勝沼地区）改良事業にあたり、周知の埋蔵文化財包蔵地である大門後遺跡に近接することから、平成24年4月22日の現地協議に基づき昨年度に引き続き今年度も試掘調査を実施した。

今回の対象範囲は河川の影響下で形成された土地である。1・2トレンチは用地取得まで葡萄が棚で栽培されており、その下部では水田耕作土と酸化鉄の濃集する水田床が確認でき、葡萄栽培以前には稻作が行なわれていたことが判る。水田面の下は円礫混じりの粗砂の河川堆積層である。日本料理店前の3トレンチでは、黒褐色砂質土中から平安時代の土器の小片3点が出土した。4・5トレンチでは、小円礫～大円礫を含む砂質土で構成されていた。6・7トレンチも小円礫～大円礫を含む砂質土で構成される。7トレンチでは縄文時代前期後半の諸穂式土器3点が出土した。

遺物が出土したのはいずれも円礫混じりの砂質土層もしくはシルト質土層であり、この場所に集落が存在したというよりも、近隣の遺物包含層が河川作用により押し流されて再堆積したものと推定される。

平安時代と縄文時代前期の土器片が少量出土しているが、いずれも河川堆積作用で形成された堆積層からの出土であり、近隣に遺跡が存在することは窺えるが、対象範囲には保護すべき遺跡は存在しないと判断される。

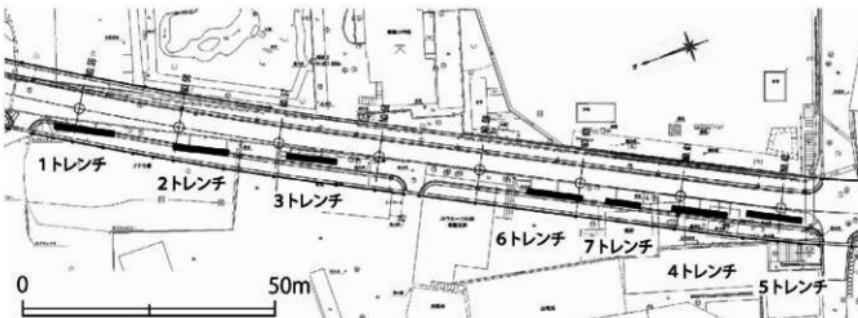


第1図 国道411号拡幅事業位置図

1T完掘状況

3T掘削状況

7T土層堆積状況



第2図 試掘トレンチ配置図

## 12 国道140号緊急道路整備修繕事業 試掘 《大坪遺跡》

所在地	甲府市桜井町637-2	調査期間	平成25年8月5日～9日
担当者	永田亮一、御山亮済	調査面積	9m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

試掘調査対象区域は甲府市桜井町に所在する十郎橋西交差点の北西隅に位置する。国道140号緊急道路整備修繕事業に伴い、計画路線区域が周知の埋蔵文化財包蔵地（大坪遺跡）に該当するため、試掘調査を実施することとなった。調査区域には一部水道管の埋設があったため、これを避けつつ南北方向と東西方向に1本ずつトレチを設定した。表土を重機にて掘削し、遺物包含層が確認されたところで人力にて掘り下げて調査をおこなった。

基本層序は以下のとおりである。I層とした表土は層厚約60cmで明茶褐色砂質土。現代の耕作時に混入したと思われるビニール袋などがみられる。II層は層厚約30cmの戦前から戦後に帰属すると思われる遺物を包含する暗灰色粘質土。III層は遺物包含層で上層と下層の2層に分かれる。III層上層は層厚約10cmの暗灰色粘質土で、5mm角程度の平安時代の土師器細片が多量にみられる。III層下層は層厚約20cmの暗灰白色粘質土で粘性は強く、橙色と暗灰色の土が混じる。III層下層から約3cm角の土師器片が出土しており、遺物包含層の主体層であると思われる。IV層は5cm程度の小石が混じる暗灰色粘質土で、遺構確認面である。IV層より下層は暗灰色のシルト層（地山）である。

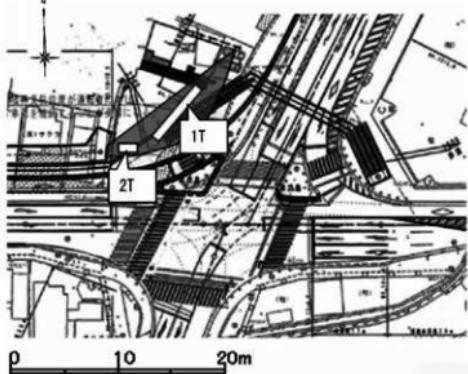
南北方向に設定したトレチを1トレチ、東西方向に設定したトレチを2トレチとして調査をおこなった。1トレチは幅約1m、南北方向に約7mの掘削をおこなった。トレチ北端より5mの地点まで、20cm角以上の人為的に割られた石を主体とする搅乱層が約80cm程度掘り込まれていたが、その直下で遺物包含層と思われる暗灰色粘質土（III層上層）を確認したため、III層上層上面まで重機にて掘削した。それ以下は人力にて精査したが、5mm角程度の土師器片が出土したのみで、明確に時期のわかる遺物は出土しなかった。その後、重機にてさらに掘削したところ、暗灰色粘質土（III層下層）を検出した。遺構確認面の可能性があったため、人力にて掘削を実施したところ、約3cm角の平安時代の土師器片が出土した。このことから、遺物包含層下層であると判断し、III層下層についても人力にて掘削をおこない、IV層を確認したところで精査したところ、トレチ南端より約2mのところで西壁に半分かかる形で土坑1基を検出した。遺構を確認したところで掘削を終了した。2トレチは、1トレチの西側に幅約1m、東西方向に約2mの掘削をおこなった。2トレチでは、1トレチでみられた遺物包含層（III層上下層）から遺物の出土はなく、IV層上面で遺構が確認できなかったため、さらに掘り下げて下層の調査を実施した。遺構確認面であるIV層を約15cm掘削したところで、地山と思われる暗灰色シルト層を確認したため掘削および調査を終了した。

以上の結果より、試掘調査対象区域の北半分には20cm角以上の人為的に割られた石を主体とする搅乱がみられるものの、遺物包含層までは達しておらず、平安時代の遺物包含層および文化層が大部分遺存していることが想定されるため発掘調査が必要となる。

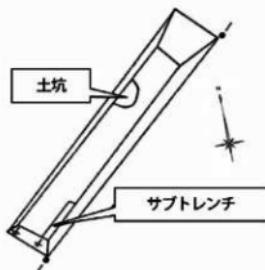
1トレチは記録作業終了後、土坑および遺構面の一部に土のう袋を敷設して埋め戻し、2トレチは記録作業終了後埋め戻した。出土遺物量は土師器などプラスチックコンテナにて1箱である。



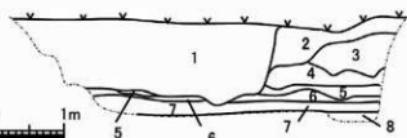
第1図 国道140号緊急道路整備修繕事業位置図



第2図 試掘トレーニング配置図



第3図 1T造構平面図



1. こげ茶色粘質土(粘性弱、鉄・石主張、砂礫少々:擾乱)
2. 明茶褐色砂質土(粘性弱、5cm程の小石多く混じる)
3. こげ茶色粘質土(粘性強、5cm程の小石多く混じる)
4. 暗灰茶色粘質土(粘性弱、鉄化物少見)
5. 暗灰茶色粘質土—やや硬、鉄化物(鉄化物止上)
6. 暗灰茶色粘質土(粘性弱、4mリヤや硬、鉄化物少量、5mm角の土界面細片出土)
7. 暗灰白色粘質土(5cm程の小石混じる、鉄化物少見、土界面片出土)
8. 黒褐色粘質土(鉄化物少見、粘性弱) / N層(液限強度強)

第4図 1T土層堆積状況図



1T掘削状況



1T調査状況



1T造構確認状況



1T土層堆積状況



1T土坑検出状況



2T土層堆積状況

## 13 国道141号絵見堂交差点改良事業 試掘 《宮ノ前第4遺跡、宮木遺跡》

所在地	韮崎市藤井町絵見堂2717外	調査期間	平成25年9月18日・10月9日
担当者	村石眞澄、由井正昭	調査面積	19m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

事業対象地が、周知の埋蔵文化財包蔵地である宮ノ前第4遺跡及び宮木遺跡の範囲内に該当するため、9月2日に中北建設事務所・学術文化財課・埋蔵文化財センターによる三者協議に基づき、試掘調査を実施した。

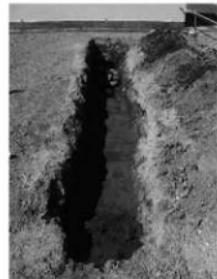
9月の試掘調査では、宮ノ前第4遺跡の範囲内に当たる交差点の北西部分に1トレンチを設定した。土層堆積は、現地表から砕石層、1層：擾乱、2層：緑灰砂〔部分的にラミナあり〕、3層：焼土・炭化物混入暗褐色シルト質土〔焼土塊（径3～10mm）・植物質纖維の炭化物を集中して含む部分あり。この下部に、円礫（径15～40cm）が隙間なく並んだ礫集中を検出。焼土中に磁器の細片（染付）が含まれており、幕末～明治時代以降のものと判断した。〕、4層：灰黄褐色砂質シルト〔酸化鉄の濃集の斑紋あり。韮崎市教育委員会によると、この堆積層を平安時代の遺構確認面としているという〕、5層：褐灰粘質シルトである。10月の調査では、交差点の南東部分に当たる宮木遺跡内に2・3トレンチを設定した。2トレンチの土層堆積は、1層：盛土、2層：黒褐色シルト質土混じり褐灰砂質シルト〔石臼大型片や巨大円礫を含む。近世～近代の落ち込みの覆土と思われる。〕、3層：にぶい黃褐色シルト質土、4層：橙シルト質土〔酸化鉄の濃集層、水田耕作土。〕、5層：黒褐色シルト質土〔部分的に粗砂のラミナラしき薄層あり。平安時代の遺物包含層。〕、6層：褐灰砂質シルトである。3トレンチの土層堆積は、1層：明褐色シルト質土〔酸化鉄の濃集する水田耕作土。〕、2層：黒褐色シルト質土〔平安時代の遺物包含層。〕、3層：褐灰砂質シルトである。土器片は摩耗した破片や細片ばかりで、また遺構は確認できず、工事に着手しても支障はないものと判断した。



第1図 国道141号絵見堂交差点改良事業位置図



1T円礫集中検出状況 北から



1T完掘状況 南から



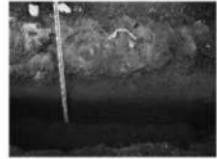
2T掘削状況 北から



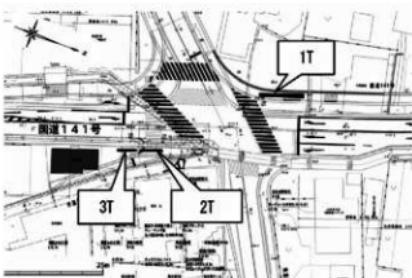
2T石臼出土状況



3T掘削状況 南から



3T土層堆積状況



第2図 試掘トレンチ配置図

## 14 甲府地方検察庁別館解体及び新車庫建設事業 試掘 《甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市中央一丁目11-8	調査期間	平成25年7月18日・26日
担当者	村石眞澄、宮里 学	調査面積	44m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

調査対象範囲は、甲府城下町遺跡内で「追手小路（舞鶴通り）」に面し、柳沢時代の家老「鈴木主水」の屋敷地にあたる。試掘調査は、建物の地上部分の撤去がほぼ終え床面を剥がした段階で実施した。トレンチの名称は、7月18日の調査は1-1トレンチから、7月26日の調査は2-1トレンチから命名した。

別館基礎内部の搅乱は100～120cmに及んでおり、この搅乱層の下に、にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト～褐灰（10YR4/1）シルト質土、暗灰（N3/0）シルトの順で堆積していた。各トレンチとも建物基礎工事などにより搅乱を受け、遺物包含層となる堆積層は失われていた。遺物は搅乱層から採集した磁器片が主体であり、近代以降が大半で、近世の遺物は染付磁器1片であった。その他に赤色煉瓦や近代以降の棟瓦などが多く出土した。

また、1-5トレンチでは、現地表面から180cmの深さで、マツ材と思われる丸太材の“地中基礎”を確認した。この“地中基礎”は、丸太材を鉛直に打ち込み、この上に水平に丸太材（直径18cm、長さ180cm）を並べたものであり、地盤の軟弱な土地での基礎の不等沈下を防ぐものと思われる。これを埋める堆積土には赤色煉瓦を含むため、この“地中基礎”的時期は近代のものと判断した。

試掘調査の結果、工事を継続しても埋蔵文化財には影響を与えないと考えられる。



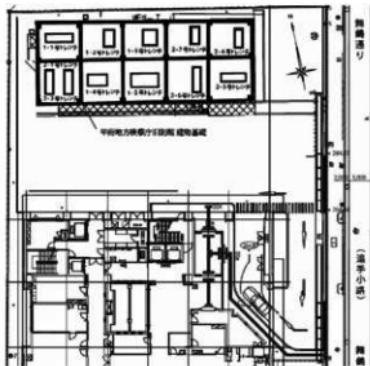
第1図 甲府地方検察庁別館解体及び新車庫建設事業位置図



1-1T 土層堆積状況



1-5T 丸太材検出状況1



第2図 試掘トレンチ配置図



1-5T 丸太材検出状況2



1-5T 丸太材検出状況3



1-5T 丸太材検出状況4

## 15 リニア見学センター整備事業 試掘

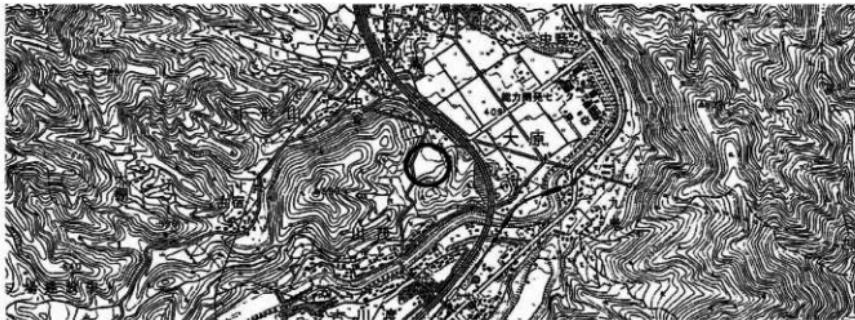
所在地	都留市川茂字上揚久保502外地内	調査期間	平成25年4月18日
担当者	村石眞澄、由井正昭	調査面積	68m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、リニア見学センター整備事業における駐車場造成及び拡張に伴う外周擁壁などを設置する工事である。周知の埋蔵文化財包蔵地である揚久保遺跡及び中谷遺跡などに近接することから、平成24年11月に試掘調査を実施したが、この段階では駐車場として利用しており試掘調査が実施できなかつた範囲が今回の調査対象である。

今回の対象範囲は大半が盛土整地工事であるが、道路から駐車場への進入路は掘削を行なうため、この進入路を中心H25第1トレンチ、その南にH25第2トレンチを設定した。この地点は、駐車場にするために傾斜地を造成しており、碎石の下部に約1m以上の盛土があり、両トレンチは地山を確認しつつ重機による掘削を行なった。第1トレンチの規模は長さ約29m、幅約2m、深さ2m、その南の第2トレンチは長さ約5m、幅約2mである。以前の盛土の底面の大半には、黒色の保護シートが敷かれており、その下は明黄褐色シルト質土（風化火山灰を母材とする堆積層）の地山が主体であった。本来はその上層に存在するはずの遺物包含層となる暗～黒褐色土層は存在しなかつた。地山の明黄褐色シルト質土も、傾斜地であるため斜面上方から崩壊したと思われる黒褐色シルト質土を層状もしくはブロック状に含んでいた。

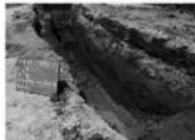
試掘調査の結果、両トレンチから遭構・遺物とも確認できなかつた。今回の試掘調査地点においては、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えないと判断される。



第1図 リニア見学センター整備事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況1



1T土層堆積状況2



2T土層堆積状況1



2T土層堆積状況2

## 16 県営住宅御坂団地他駐車場整備事業 試掘

所在地	笛吹市御坂町二之宮字宝手2650	調査期間	平成25年1月28日
担当者	野代幸和、長田隆志	調査面積	9m <sup>2</sup>

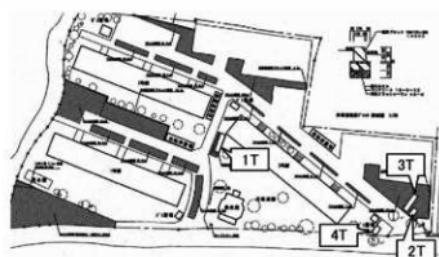
### 調査経緯及び事業内容と結果

試掘調査は、工事の丁張りが完了した自転車置場建設予定地（1T）より、緑地帯（2・3T）、看板建設予定地（4T）の順番でトレーニングを設けて実施した。1トレーニング（0.6×5.0m）では工事で最大0.5mの掘削を予定していることから、現況地盤面から保護層を勘案した0.8mまで掘削を実施したところ、0.55mの盛土と0.15mの旧表土を確認した。土層の変色部分が認められたため東側の一部を1m付近まで掘り下げたところ塩化ビニルと鉄の配管が確認されたが、遺構・遺物共に確認できなかった。2・3トレーニング（0.6×5.5m、0.6×2.5m）では、工事で最大0.5mの掘削を予定していることから、現況道路地盤面から保護層を勘案した0.8mまで掘削を実施したところ、現況地盤面下0.54～0.8mでコンクリート路盤にあたり掘削を中止した。遺構・遺物共に確認できなかった。本路盤はそのまま埋められたままということなので、下部の掘削は実施しなかった。4トレーニング（0.6×2.0m）では現況地盤面下0.8mまで掘り下げたところ、0.6mの盛土を確認した。一部搅乱も見られ旧地盤面が確認できなかったが、遺構・遺物共に確認できなかったため、これ以上の掘削を中止した。

調査地点が狭小な範囲であると共に、地下に既存構造物が認められたことから、現状での調査には限界があるが、現況地盤下0.55m付近で旧地表面も確認できたことから、遺構や遺物が残存する可能性が想定される。既存建物の基礎解体工事など地下に影響を及ぼす際には精度の高い調査が必要である。



第1図 県営住宅御坂団地他駐車場整備事業位置図



第2図 試掘トレーニング配置図



1T掘削状況



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



4T土層堆積状況

## 17 県営住宅八代団地駐車場整備事業 試掘 《真道澤遺跡》

所在地	笛吹市八代町南1615	調査期間	平成25年12月20日
担当者	保坂康夫、柴田亮平	調査面積	8m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

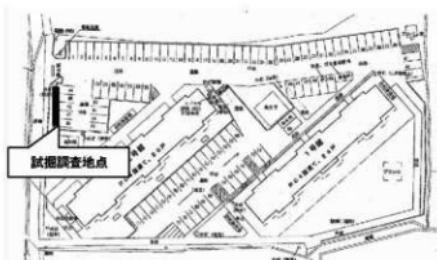
県営住宅八代団地駐車場整備事業に伴う試掘調査である。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地、真道澤遺跡である。そのため、国土整備部建築住宅課、学術文化財課、埋蔵文化財センターの協議に基づき、工事施工前に試掘を実施した。

試掘調査は小型擁壁設置箇所にトレーニングを設定し、埋蔵文化財の確認を行なった。トレーニングの北西の一部に、遺構や遺物包含層となる可能性がある堆積層が残存していた（2～4層）。現代の二次堆積層（搅乱層）（1層）の下に灰褐色土層（2層）があり、畑もしくは水田の耕作土と考えられる。その直下には水田の底土の可能性がある赤褐色土層（3層）、黒色土層（4層）があり、トレーニング最深部は白灰色砂層（5層）であった。砂層の一部を掘り抜いたところ、厚さ約20cmで、その下部には黒色土層が厚さ10cm程度堆積しているのを確認した。

調査区（トレーニング）の大半は、搅乱層であった。原因は駐車場設置時の盛土に加えて、古い貯水槽（集水樹？）が2槽、それを繋ぐ塩ビ管が確認され、それを埋設したためと考えられる。今回の試掘調査では、遺構・遺物は確認できなかった。



第1図 県営住宅八代団地駐車場整備事業位置図



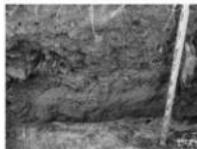
第2図 試掘トレーニング配置図



調査前状況



掘削状況



土層堆積状況



完掘状況

## 18 曽根丘陵公園（防災公園）整備事業 試掘 《上の平遺跡他》

所在地	甲府市下曽根町923外地内	調査期間	平成25年1月21日・23日～25日
担当者	保坂和博、土橋寛仁	調査面積	74m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、曾根丘陵公園（防災公園）整備事業に伴う園路拡幅及びトイレ等を設置する事業である。

曾根丘陵公園内では、これまでに旧石器時代から古墳時代にかけての遺跡が数多く発掘調査され、また保存されてきており、今回の調査では岩清水遺跡の隣接地や埋設保存されている上の平遺跡の範囲に当たることから、平成24年10月31日に行った現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

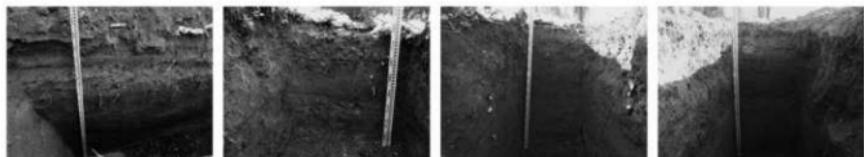
今回の試掘調査では、長さ約5.0～16.0m、幅約1.0m、深さ約0.7～1.7mのトレーナーを9箇所（1T～9T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

調査地は、1～7トレーナーを設定した笛吹川左岸低地域（北地区）と8～9トレーナーを設定した曾根丘陵上地城（南地区）に大別される。北地区的土層堆積状況は、1～3トレーナーでは地表下約50cmまでは公園造成時の整地層（第1～7層）が堆積し、その下層は地山層となる第8層（にぶい黄褐色土層）、第9層（黒褐色土層）、第10層（橙色粘質土層）が確認され、さらに3トレーナーでは沢状地形の傾斜に第11～15層の層順が確認された。4～5トレーナーでは、地表下約70cmまで崩落土層（第1～2層）、その下層に地山層となる黒褐色土層（第3～4層）が確認された。6～7トレーナーでは、地表下約110cmまで崩落土層（第1～3層）、その下層に地山層（第4～6層）が確認された。南地区的8～9トレーナーでは、上の平遺跡の埋設保護層（盛り土層：第1～5層）を8トレーナーで地表下約90cm、9トレーナーで地表下約120cmまで確認し、その下層にそれぞれ遺構確認層（地山層：第6～7層）が確認された。

試掘調査の結果、1～7トレーナーでは、遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えないと判断される。8～9トレーナーでは、遺構確認層が検出されたことから工事を行うに当っては、埋蔵文化財の保護措置（遺構確認面から保護層30cmの確保など）が必要と判断される。



第1図 曽根丘陵公園（防災公園）整備事業位置図

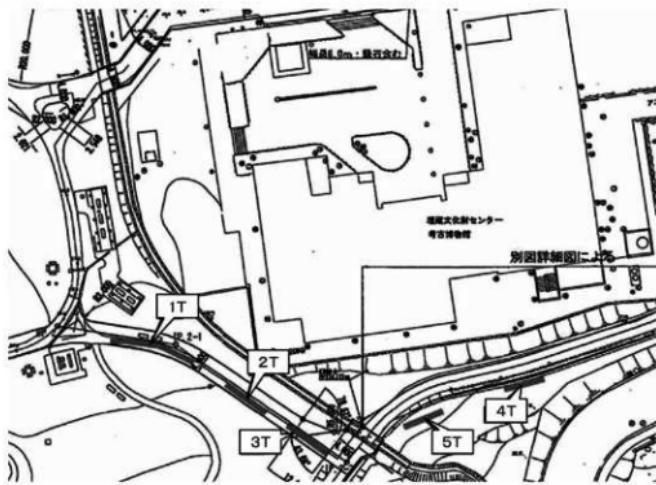


3T土層堆積状況

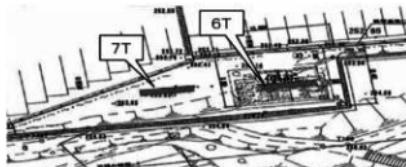
5T土層堆積状況

7T土層堆積状況

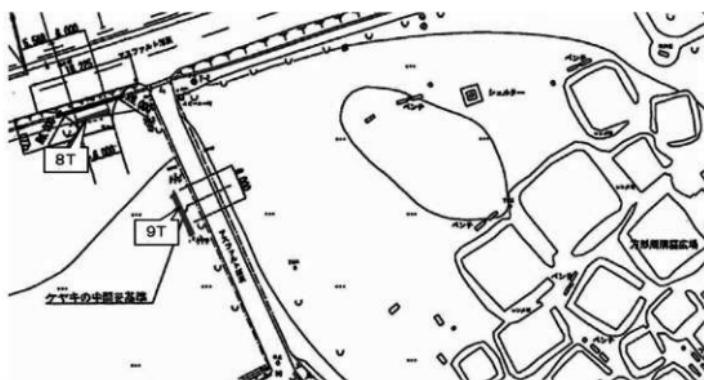
8T土層堆積状況



第2図 1～5トレンチ配置図



第3図 6～7トレンチ配置図



第4図 8～9トレンチ配置図

## 19 中部横断自動車道建設事業 立会（身延町下山地内）

所在地	身延町下山地内	調査期間	平成25年9月6日
担当者	村石眞澄、由井正昭	調査面積	16.8m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である下山堤防遺跡の推定範囲にあたるために平成20年に身延町教育委員会により試掘調査が実施され、さらに平成24年には埋蔵文化財センターにより試掘調査が実施されている。これらの試掘調査では堤防の痕跡が見つからなかったが、工事で掘削等を行なう場合には事前に連絡し、立会調査への協力を依頼していた。

今回は、現行の霞堤を撤去する工事施工の連絡を受けての立会調査を行なった。霞堤（上流側）は既に大半の上部が撤去され、一部が残存するのみであった。そこで、霞堤（上流側）については、露出している堤の横断面を再度、バックホーで削り直して観察を行なった。この部分は堤体には、練石積み（巨礫をコンクリートで固めて補強したもの）もなく、土羽である。内部の堆積は中～大礫混じりの粗砂の一様の堆積であり、内部に古い堤防らしきものを確認することはできなかった。

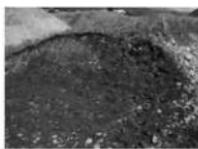
また、霞堤（下流側）では、川表側と天端には練石積みを剥がして解体作業を進めていた。バックホーにより掘削し横断面の観察を行なったが、やはり内部に古い堤防らしきものを確認することができなかつた。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



霞堤掘削状況



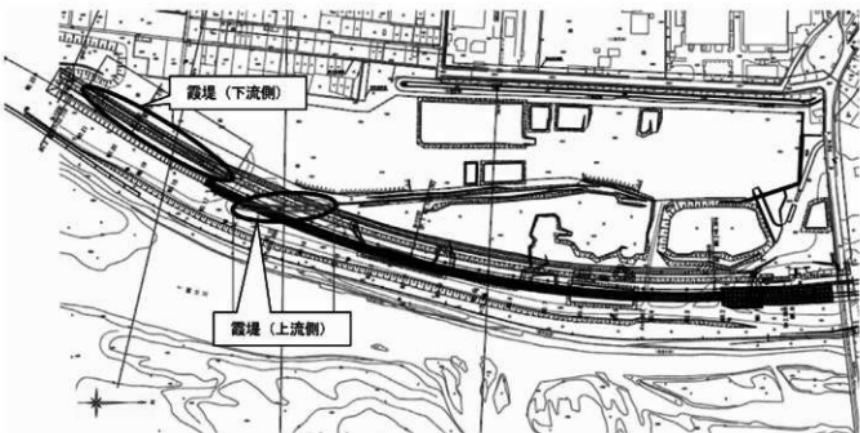
霞堤半截状況（上流側）



霞堤半截状況（下流側）



霞堤掘削状況（下流側）



第2図 立会調査位置図

## 20 国道411号古府中環状浅原橋線改良事業 立会 《甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市中央二丁目、四丁目地内	調査期間	平成25年5月23日・24日・26日～28日、6月3日～5日、11月6日・10日・12日・13日・15日・21日
担当者	保坂康夫、山本茂樹、村石真澄、今福利恵、田口明子、御山亮済	調査面積	140.4m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

本事業は県道古府中環状浅原橋線及び城東通り（国道411号線）の拡幅工事に伴う調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である、甲府城下町遺跡の範囲内にあたることから、発掘調査等による対応を行ってきた経緯がある。今年度も新たに買取された事業エリアを対象とした、電線共同溝設置に伴う立会調査を行った。

5月23日から実施した調査では、約38mの区間を8日間で重機により掘削した。調査地点の西側において、近世の陶磁器片が出土したが、江戸期および古墳時代の層は搅乱を受けていることから、近代以降に投棄されたものと判断される。

11月6日から実施した調査では、約40mの区間を6日間で重機により掘削した。工事は東から西に向かって順次行われたため、東から(9)～(14)地点と呼称する。調査地点では平成23年度調査で確認された江戸期および古墳時代の層は搅乱を受けているために確認されなかった。また、出土した丸太杭や丸太部材は、平成23年度の調査結果から近代の可能性が高い。他に遺構・遺物は発見されなかった。

以上により、工事を継続しても埋蔵文化財には影響を与えないと考えられる。



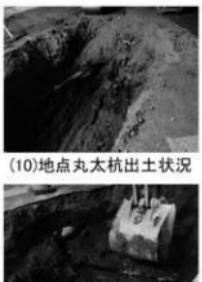
第1図 国道411号古府中環状浅原橋線改良事業位置図



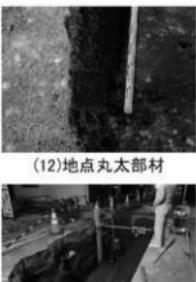
(9)地点土層堆積状況



(10)地点丸太杭出土状況



(10)地点丸太杭出土状況



(12)地点丸太部材出土状況

(12)地点丸太部材出土状況

掘削状況



第2図 立会調査位置図

調査地點	調査日	出土遺物	備考
(1) 甲府市2丁目412	5月23日		
(2) 甲府市2丁目413	5月24日		
(3) 甲府市2丁目413・420	5月26日	江戸期磁器、貝類	黒色土層から遺物が出土した
(4) 甲府市2丁目421	5月27日		
(5) 甲府市2丁目421	5月28日	江戸期磁器	青灰色土層上位から遺物が出土した
(6) 甲府市2丁目420	6月3日	江戸期陶磁器、瓦、木製品（杭など）、貝類	地表下1.7mの灰色土層下位から杭、地表下2.1mの暗灰色粘土層から江戸期陶磁器・瓦・木製品が出土した
(7) 甲府市2丁目420	6月4日	江戸期磁器	地表下170cmの青灰色粘土層から遺物が出土した
(8) 甲府市2丁目420・421	6月5日	瓦	黒色土層から遺物が出土した
(9) 甲府市4丁目16・17	11月6日	丸太杭（直径0.2～0.3m）	地表下1.2mの黒色粘土層上面で丸太杭を確認した
(10) 甲府市4丁目16	11月10日	丸太杭（直径0.2m、長さ2.7m）	擾乱層から丸太杭上端が検出、側溝下で確認された 旧下水管の下に杭が下水管に沿って敷かれていた
(11) 甲府市4丁目15・16	11月12日		
(12) 甲府市4丁目13・14	11月13日	丸太部材（長さ1.8m）	地表下0.8mの黒色粘土層中で丸太部材が横位に出 土、丸太部材の片端は方形に加工されていた
(13) 甲府市4丁目11～13	11月15日		
(14) 甲府市4丁目11	11月21日		

第1表 立会調査地点出土遺物一覧表

## 21 国道411号拡幅事業(勝沼地区) 立会

所在地	甲州市勝沼町休息地内	調査期間	平成25年9月18日・26日・10月21日
担当者	田口明子	調査面積	31m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

試掘対象範囲は南北に約100mと長いため、工事の進捗状況に合わせて1.南端・2.中央・3.北端の順に調査を行った。調査地点1は長さ約6m、幅約1.1m、深さ約2.3mのトレンチを掘削した。現地表面から0.9m下までは舗装道路による搅乱を受け、その下層に自然堆積のにぶい黄褐色粘質土層が約0.3m堆積し、さらに約1.1mまで巨礫を含むオリーブ褐色砂礫層が続いた。遺構・遺物ともなし。調査地点2は長さ約11m、幅約1.1m、深さ約1.6mのトレンチを掘削した。現地表面から約1mは舗装道路等による搅乱を受け、その下層から自然堆積となる黒褐色粘質土層が約0.2m、さらに巨礫を含む暗褐色粘質土層が0.4mの厚さで確認された。遺構・遺物ともなし。調査地点3は長さ約4.2m、幅約3m、深さ約2.7mのトレンチを掘削した。現地表面から約1.35mまで舗装道路等による搅乱を受けていた。その下層から自然堆積となるにぶい黄褐色砂層が約0.15m、灰黃褐色砂層が約0.7m確認された。遺構・遺物ともなし。

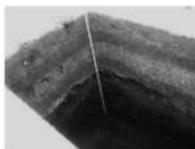
今回の調査地点では遺構・遺物ともに発見されなかった。また調査地点の土層観察からも旧河川が存していた可能性が高い。以上により工事を継続しても埋蔵文化財には影響を与えないと判断した。



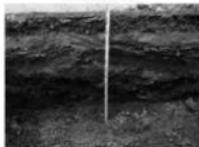
第1図 国道411号拡幅事業位置図



調査地点1掘削状況



調査地点1土層堆積状況



調査地点2土層堆積状況



調査地点3土層堆積状況



第2図 立会調査位置図

## 22 甲府地方家庭裁判所都留支部仮庁舎建設事業 立会 《谷村城跡》

所在地	都留市中央二丁目1-1	調査期間	平成25年10月10日・11月21日
担当者	村石眞澄、由井正昭	調査面積	10m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

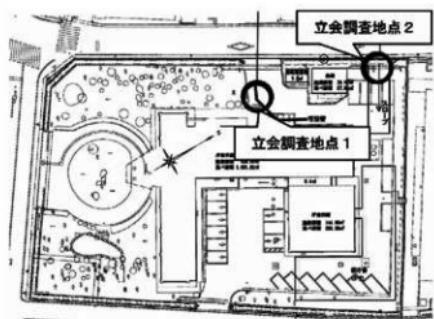
周知の埋蔵文化財附蔵地である谷村城跡（谷村陣屋跡）が事業予定地に存在するため立会調査を実施した。10月10日には県道から通用門東の仮設水量計の北東の現地表下70cmで暗褐色土の包含層らしき堆積を確認し、11月21日には県道脇の石垣裏の現地表下15cmで明黄褐色ブロック混じりのにぶい黄褐色土の堅くしまった古い造成層を確認した。他は近現代の陶磁器片や瓦片を含むしまりのない盛土であった。

この敷地は南西の正門から北東に向かって傾斜しており、南西の正門の地盤に合わせて約1m以上の盛土造成が行なわれているらしいことが判明した。北東に隣接する甲府地方検察庁都留支部との境界にも裁判所の石垣が積まれ盛土されている。造成時期は含まれる遺物から近代以降のものと考えられる。この盛土は客土である可能性が高く、谷村城跡の遺構はその下に良好に保存されていると想定される。

今回の立会調査では、遺構・遺物は確認できなかったので、今回立会を行なった仮設庁舎建設工事では埋蔵文化財の保護措置は必要がないと判断される。ただし、この敷地は谷村城跡（谷村陣屋跡）に当たるので、本庁舎建設に先立って発掘調査が必要である。



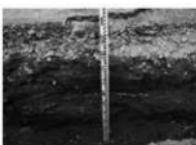
第1図 甲府地方家庭裁判所都留支部仮庁舎建設事業位置図



第2図 立会調査位置図



埋設管工事掘削状況



埋設管工事土層堆積状況



包含層確認状況



車輪進入路土層堆積状況

## 23 山梨県庁舎耐震化等整備事業（埋設配管工事）立会《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目6-1	調査期間	平成25年4月22日～27日
担当者	今福利恵、宮里学、塙谷風季、花形裕	調査面積	78.15m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

今回の調査において、エリア1・2・4で本調査、エリア3・5で立会調査を実施した。一連の調査であるため、本調査部分についても記載する。

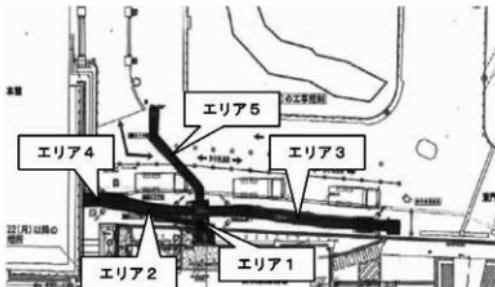
重機による表土剥ぎにおいて、昭和時代中頃の県庁舎建設に伴って整地された面が現地表面より約-70cmまで検出された。炭化物を多く含んだ約2cm厚の灰層が検出され、戦時の際の炭化材や灰を埋めたものと思われる。

エリア1は、北東区で現地表面より約-70cmまで整地層が確認され、北東側一部を除いて下半が搅乱であつたが、瓦や陶器などを検出した。東壁は整地層を確認するために一部深く掘削を行い、現地表面より約-100～-170cmで直径約50～60cmの安山岩と小礫の凝灰岩を検出した。東方向へ続いていると思われるが性格は不明である。-180cmまでの掘削とした。エリア2・4では、現地表面より約-70cmの粘性土層から遺物が散発的に出土したが遺構は認められず、現地表面より約-80cmまでの掘削とした。エリア3は、エリア1より東10mで現地表面から約-60cmより遺物が多量に出土し始め、ここから東10mまでを保護区域として-60cmまでの掘削とした。また保護区域より東で南北に伸びると想定される安山岩の石列2列の一部を検出した。この石列は前記の『甲府城跡一楽屋曲輪地点』で確認された石列2列と同一のものと思われる。確認できた石列幅は約40cm、深さ約30cmである。石列2列は2段目の石まで残存していた。石列2列の遺存状況を把握し、保存措置を行うこととなつた。また石列2列より東側は現地表面より-80cmで搅乱が広がり瓦が出土したが、ハンドホール設置箇所で、120cmまでの掘削とした。エリア5では、現地表面より約-70cmより瓦が散発的に出土した。直径約70cmの礎石状の石を検出したが、石材が花崗岩であることから県庁舎に関係するものと思われる。-80cmまでの掘削とした。

一部現地表面より-90cmまで搅乱されている場所があるものの、現地表面より約-70cm以下の整地層中に瓦などが遺存していると判断される。



第1図 山梨県庁舎耐震化等整備事業位置図



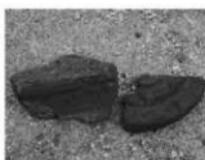
第2図 立会調査位置図



作業状況



水路石列検出状況



出土遺物



完掘状況

## 24 山梨県庁耐震化等整備事業（埋設配管工事）立会 《甲府城跡》

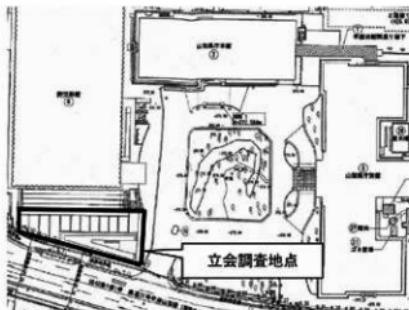
所在地	甲府市丸の内一丁目6-1	調査期間	平成25年 5月21日～6月5日
担当者	今福利恵、塩谷風季	調査面積	131m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

5月21日に重機による掘削において、現地表面より約-30cmから大きさ約50～100cmの石垣に関連する石、または転石等の大きい礫（安山岩）を検出した。5月22日に埋蔵文化財が存在していることが分かるように、埋文と書いたシートを石の上にかけて、山砂をかけて養生して保護措置を行った。5月23日に電気配線接続のため、一部深く掘削を行ったところ現地表面より約-80cmまで搅乱層、現地表面より約-80～130cmまで江戸期の整地層、現地表面より約-130～160cmまで地山が確認された。現地表面から江戸期の整地層まで瓦や陶器などが出土した。5月24日に重機による掘削において、5月20日の現地協議を踏まえ、現地表面より約-40cmで電気配線と上下水管の掘削範囲を一本化し、掘削範囲を最小限にした。5月27日に石垣が現地表面より約-70cmで検出されたため、5月28日に管財課、学術文化財課、工事関係者、埋蔵文化財センターの4者で現地協議を行い、設計変更により、石垣を保存する事となった。5月30日に前記の4者で設計変更後の確認を行い、(1)石垣パークの縁石の規格を変更する。(2)埋設には碎石から山砂に変更する。(3)埋文シートを敷設後、石垣の保護層は25cm、13cm、7cmと傾斜に沿って設けることを確認し、現地にて埋設保存した。6月4日までに工事関係者が利用する仮設トイレと電圧設備の移設が完了し、6月5日に重機による掘削を実施した。この際には、遺物は確認されなかつたが掘削範囲は写真と図面で記録し作業を終了した。



第1図 山梨県庁耐震化等整備事業位置図



第2図 立会調査位置図



表土剥ぎ状況



土層堆積状況



石垣検出状況1



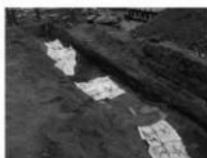
石垣検出状況2



礫検出状況



電気配線掘削状況



石垣養生状況



埋め戻し状況

## 25 山梨県庁舎耐震化等整備事業（ガス管理設工事、GHP接続工事）立会《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目6-1	調査期間	平成25年6月14日～15日
担当者	宮里学	調査面積	7m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

当該地点は、江戸時代の絵図によると楽屋曲輪の北東部に該当し、江戸時代を通じて建物は配置されていないが、江戸時代後期の絵図では周辺に御金蔵や番所などが描かれている。また、これまでの調査成果から、当該地周辺からは安山岩の岩盤が検出されていることから、甲府城に係わる石切場の可能性がある地域である。

ガス管理設工事の立会調査地点は、山梨県庁敷地内である。掘削深度は約1.6mを測る。掘削の結果、上層は搅乱の影響を受け、中段では部分的に近世から近代所産の盛土が認められたが遺構や遺物は検出されなかった。下層は堆積土（安山岩の風化または未固結状）であったが、石切場に関連するような岩盤の検出には至らなかった。

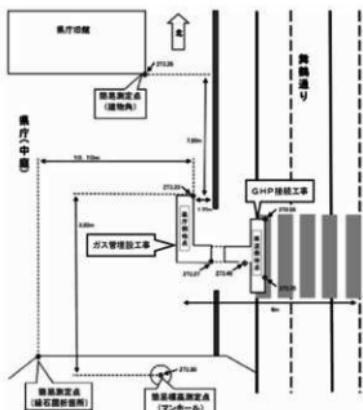
GHP接続工事の立会調査地点は、舞鶴陸橋に繋がる県道側であり、掘削深度は約1.6mを測る。上記の地点に隣接することから堆積状況は同様であり、遺構、遺物、岩盤の検出には至らなかった。



第1図 山梨県庁舎耐震化等整備事業位置図



第2図 立会調査位置図1



第3図 立会調査位置図2



調査状況



土層堆積状況

26 山梨県庁舎耐震化等整備事業（シンボルツリー植栽）立会《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目6-1	調査期間	平成25年6月18日
担当者	宮里学、花形裕	調査面積	10m <sup>2</sup>

## 調査経緯及び事業内容と結果

当該地点は江戸時代の絵図によれば甲府城跡南西部に位置する乗屋曲輪の南端に該当する。これまでの発掘調査では、当該地点周辺から石垣遺構や瓦などの遺物が確認された。

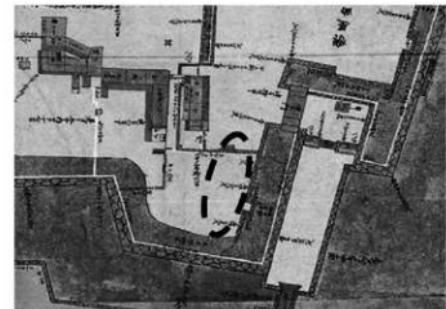
1～3トレンチは中段から粘性土の造成土が検出されたが、4トレンチは全体に搅乱の影響を受けており、造成土は確認されなかった。また4つのトレンチの完掘状況を照らし合わせた結果、北から南に向かって搅乱が広がっていることが認められた。今回の調査では、甲府城に関わる遺構及び遺物は検出されなかった。



第1図 山梨県庄木耐震化等整備事業位置図



第2図 立会調査位置図



第3図 「樂只堂年録」(1705年)に基づく掘削地點の比定



掘削状況



#### 4T土质堆积状况

## 27 山梨県庁舎耐震化等整備事業（駐輪場地盤改良工事）立会《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目6-1	調査期間	平成25年7月9日～8月1日
担当者	今福利恵、御山亮済	調査面積	216m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

平成24年度の調査にて確認し保護措置を行った、甲府城関連遺構の石積み水路に対して予定している駐輪場の基礎は中央部に荷重をかけることで石積み水路に荷重がかからない設計とした。この中央部は発掘調査の埋土であるため建物を支えられるように地盤改良を行うこととした。この基礎設計による地盤改良は甲府城造成層に対して保護した面よりさらに深さ10cm程掘削する必要が生じた。このため協議により甲府城造成層はトレーン調査にて土層の記録済みであることから、立会調査を実施することとなった。

駐輪場建設に伴う立会調査は、平成25年7月9日から12日に基礎工事のための床掘り及び配管埋設作業において地表下45cmの掘削であったが、既掘埋土内での作業であることを確認した。7月16日には地盤の載荷試験のための掘削の立会を行った。地盤改良は一部において保護した甲府城造成層へ掘削が及ぶことから現地協議にて慎重な掘削を要請し、7月25日にかけて立会調査を行った。地盤改良は発掘調査で掘削した個所の埋め戻し土を再度掘り上げて改良剤を混入してまた戻す作業であり、トレーン内においても同様に実施された。南端部は未調査範囲ではあるが、表土内での掘削及び基礎工事であり埋蔵文化財に対する影響は認められなかった。発掘調査範囲内では甲府城造成層確認面となる直上までの埋め土に対して行われ、北端部から20m×幅約4mの80m<sup>2</sup>は甲府城造成層上面から15cm程下がる地表下65cmまで改良のための掘削が行われた。遺構は検出されず、発掘調査における5トレーン付近で江戸期の瓦片がわずかに出土した。さらに先に敷設した上水道管について一部を切りまわす必要が生じ、8月1日に立会調査を行ったが、地表下50cmの掘削であり、アスファルト下の碎石内での作業であることを確認して終了した。



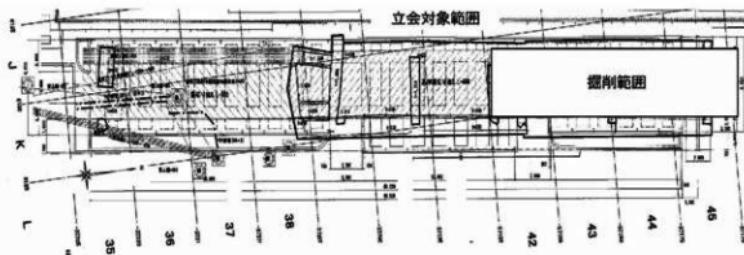
第1図 山梨県庁舎耐震化等整備事業位置図



地盤改良掘削状況



配管埋設状況



第2図 立会調査位置図

28 山梨県庁舎耐震化等整備事業（県庁東別館解体仮囲工事）立会《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目200	調査期間	平成25年10月29日～30日
担当者	宮里学	調査面積	80m <sup>2</sup>

## 調査経緯及び事業内容と結果

当該地点は、江戸時代の絵図によると来屋曲輪の東端に位置する。現況では、県指定史跡範囲外であるが、唯一露出した石垣が残存している極めて文化財的価値の高い地点と評価できる。

したがって、県庁東別館解体工事に伴う仮囲いの設置工事では近代以降の盛土に48.6mmの単管パイプをおおよそ2m間隔で打設するのみであるが、当該地点の重要性を鑑み立会い調査を実施した。

石垣の上部は近代以降の改変と全体が被剥を受け表面剥離等が激しいが、露出部分のうち下部は甲府城築城期の野面積み石垣が残存している。この石垣の前面は堀が埋め立てられ、上面は嵩上げされ駐車場となっている。単管パイプの打設は、いずれも埋め立てまたは嵩上げされた部分のみで実施した。

立会い調査の結果、掘削を伴なわないと想定した遺構や遺物の検出はなく、野面積み石垣に打設の影響が生じないよう留意した施工をおこなった。



第1図 山梨県庁舎耐震化等整備事業位置図



## 施工实施状况



残存する石垣

## 29 山梨県警察本部埋設配管増設事業 立会 《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目8地内	調査期間	平成25年3月9日
担当者	保坂和博	調査面積	11m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

今回の立会調査では、(1)マンホール側地点（長さ約320cm、幅約75cm、深さ約110cm）と(2)県庁別館外壁側地点（長さ約200cm、幅約45～70cm、深さ25～60cm）の工事掘削範囲において重機および人力による掘削後に遺構確認と土層観察を行った。マンホール側地点の土層堆積状況は、現地表下約110cmまで掘り下げたところ、第1層（表土：アスファルト約7.5cm）、第2層（埋土：碎石約20cm）が堆積し、一部別館外壁側に第3層（コンクリート基礎約10cm）と第4層（埋土：砂約20cm）、さらに全体的に第5層（盛土：黒褐色土約50cm）、第6層（盛土：にぶい黄褐色土約20cm）、第7層（地山層：黒褐色土約15cm）が確認された。県庁別館外壁側の土層堆積状況は、現地表下約25～60cm前後まで掘り下げたところ、第1層（表土：コンクリート約10cm）、第2層（埋土：碎石約50cm）が堆積し、その下層に既存の重要通信ケーブル2本が確認された。

今回の立会調査では、いずれの地点からも遺構・遺物ともに検出されなかったため、工事を進めて差し支えないと認められる。なお、県指定有形文化財（建造物）の県庁舎別館の外壁への配管（穿孔）工事は、予定どおりの内容で行われたことを確認している。



第1図 山梨県警察本部埋設配管増設事業位置図



第2図 立会調査位置図

マンホール側完掘状況

別館外壁側作業状況

マンホール側土層堆積状況

別館外壁側完掘状況

## 30 山梨県警察本部通信施設整備事業 立会 《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目6-1	調査期間	平成25年8月10日
担当者	保坂康夫	調査面積	6m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

防災新館の建設に伴い、電話回線の切り替えをするため、本館と別館の間（本館の守衛室側の出入り口から北東に向かい、別館のマンホールまでの間約6m）を幅0.9m、深さ0.6～0.7m掘削した。

調査範囲の中央部で、深さ0.8mから石敷きを確認した。石敷きを構成する礫は、直径0.2～0.4mの亜円礫で、別館側への広がりを確認した。石敷きは甲府城跡関連建物に関連する可能性があると判断した。掘削については石敷きの直上で止め、その上に配管するように指示し、石敷きの保存処置を執った。石敷きより本館側については、埋設管、コンクリート擁護壁、H鋼などで、深度0.8mまではすべて搅乱されていた。

なお、土層については、掘削地点の西壁にて観察したところ、現地表のアスファルト面より0.5mまで碎石層があり、その直下に比較的硬質の黒褐色粘質土層があり、石敷きを0.3mほどの厚さで覆っていた。黒褐色粘質土層の上半部にはスレート細片や漆喰片、針金等が混在していた。



第1図 山梨県警察本部通信施設整備事業位置図



第2図 立会調査位置図

### 31 舞鶴橋南立ち上げ管路復活工事事業 立会 《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目地内外	調査期間	平成25年3月21日～22日
担当者	宮里学	調査面積	5m <sup>2</sup>

#### 調査経緯及び事業内容と結果

当該地点は、江戸時代の絵図によれば甲府城屋形曲輪の北東部に位置する。隣接する周辺地では、屋形曲輪を外周する堀跡や江戸期所産の瓦類が大量に出土しており、遺構の残りは極めて良好な地域である。

立会い調査での掘削面積は約5 m<sup>2</sup>で、長さ4.5m、幅1mの範囲で既設埋設管を再掘削した。掘削深度0.6mで既設埋設管が確認され、土層の堆積状況を観察したが、全体が既掘範囲であるため碎石が検出されたのみで遺構および遺物は検出されなかった。



第1図 舞鶴橋南立ち上げ管路復活工事事業



第2図 立会調査位置図



掘削状況



管路検出状況

## 32 東部地域総合制高校建設事業 立会《三ノ側遺跡》

所在地	都留市上谷5-7-1地内（旧県立谷村工業高校、県立都留興譲館高等学校）	調査期間	平成25年3月11日～13日・18日
担当者	笠原みゆき	調査面積	94m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

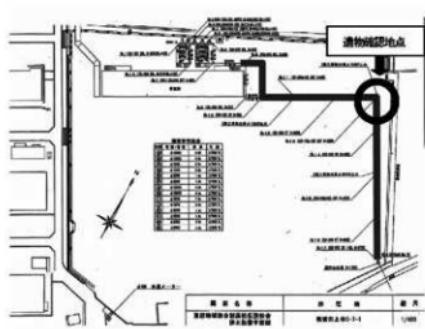
今回の立会調査は下水道管敷設工事に伴うもので、幅0.8m、長さ約148.5m、深さ0.3m～1.775mの掘削溝を重機で掘り、遺構・遺物の有無を確認した。なお、平成23・24年度の試掘調査で確認された、グランド整地面と旧水田層が掘削溝内すべてで確認できた。その深さは、地表面から最も深いところで約1m、浅いところで約0.6mである。遺物包含層はこの旧水田層の下層に存在するため、工事全長148.5mの内、掘削深度が0.6mに達しない仮設校舎脇までの117.5mを立会調査の範囲とした。

下水道はグランドの東南隅に既存公共樹が設置されていて、そこから工事が開始された。最も掘削深度が大きいこの場所で深さ1.775mを測る。ここでは、グランド整地面（0.45m）・水田層（0.25m）の2面が確認され、水田層の下には黒色土が厚く堆積していた。しかし、遺構・遺物は全く確認されなかった。この始点からグランドフェンスに沿って67mの地点で直角に西へ曲がる。この地点の掘削深度は1.205mで、グランド整地面・水田層まで0.9mとなる。この水田層の下層から平安時代の土師器の破片10点ほどが確認できた。遺物はすべて掘削土の中から発見されたが、溝内の断面・床面から遺構は検出されなかった。始点から直角に曲がってからさらに42m西の地点付近で地表面からの掘削深度が0.785m、この先、仮設校舎の脇までに0.605mとなる。

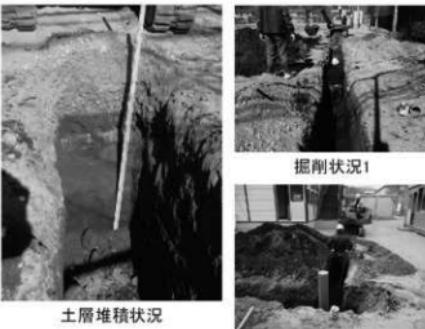
立会調査の結果、グランド北東隅の地点で遺物が出土したが、それ以外では、遺構・遺物は検出されなかった。



第1図 東部地域総合制高校建設事業位置図



第2図 立会調査位置図



### 33 東部地域総合制高校建設事業 立会《三ノ側遺跡》

所在地	都留市上谷5-7-1 (旧県立谷村工業高校、県立都留興農館高等学校)	調査期間	平成25年4月30日・6月13日・7月16～17日
担当者	田口明子、村石眞澄、由井正昭	調査面積	45m <sup>2</sup>

#### 調査経緯及び事業内容と結果

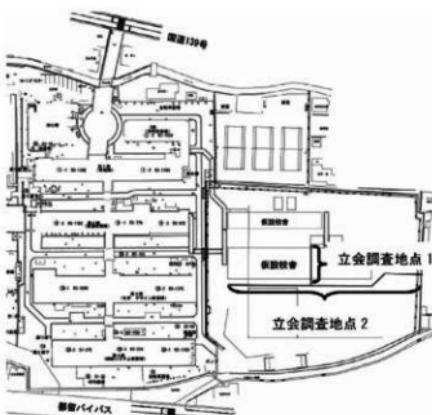
現グランド内に仮設校舎を建設するため、これに伴う給排水管設置の掘削についての工事立会を行った。

4月には南北方向の給排水管設置工事に伴う立会調査を行った(第2立会調査地点1)。重機により幅約0.5m、長さ約20m、現グランド面からの深さ約0.6～0.9mの溝を掘削した。当初の予定では給水と排水のための南北に直進する溝二本を掘削する予定であったが、排水路の位置の溝に両方とも埋設することとなったため掘削する溝が一本となった。現グランド面から約0.6mまでは砂・礫を主体とする人為的な整地層でそれ以下は黒褐色土層(10YR2/2)であった。黒褐色土層中から遺構・遺物は確認されなかった。

6月～7月には、南北の給排水管に接続する東西方向の延長距離70m、幅0.5mの給排水管設置工事への立会を行った(第2立会調査地点2)。北東方向末端の既設排水管に接続する部分は、掘削深度が最大1.25mに及んだ。土層堆積は、現地表から0.25mまでがグランド整地層、0.7mまでが下部に酸化鉄の濃集が認められる褐色シルトの水田耕作土、これ以下が黒褐色土層であった。黒褐色土層中から遺構・遺物は確認されなかった。



第1図 東部地域総合制高校建設事業位置図



第2図 立会調査位置図



立会調査地点1掘削状況



立会調査地点1土層堆積状況



立会調査地点2掘削状況1



立会調査地点2掘削状況2

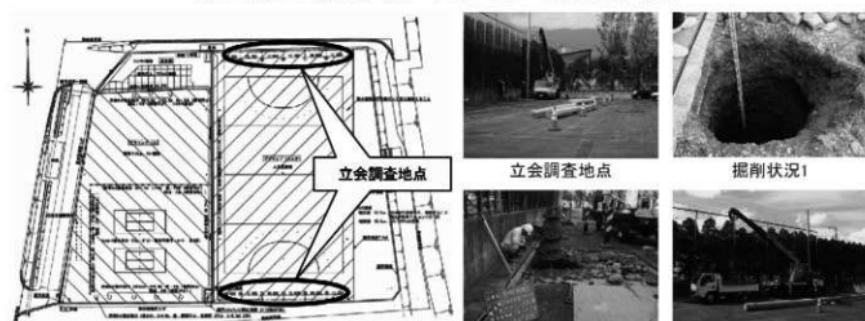
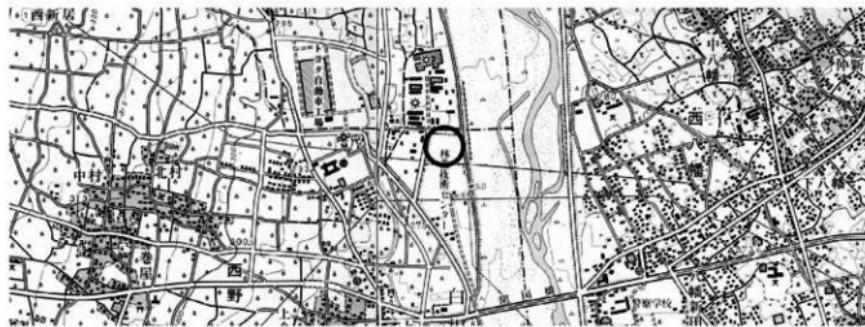
## 34 県立白根高等学校第二グラウンド人工芝張替事業 立会

所在地	南アルプス市上今諒訪字中河原850-1	調査期間	平成25年10月8日
担当者	村石眞澄	調査面積	5m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

近隣に堤防遺跡が存在するため、平成25年8月29日に全国高校総体推進室・營繕課・学術文化財課・埋蔵文化財センターによる四者協議に基づき、新設する防球ネットのコンクリート柱の設置工事について立会調査を実施した。

コンクリート柱設置のために大型ドリルで掘削する際に、立会調査を実施した。土層堆積は、現地表から25cmまで既存のグランドの整地のために敷かれた碎石層であり、25～70cmまでが中円礫混じりにぶい黄褐色(2.5Y6/4) シルト質砂、70cm以下が巨礫～大礫混じり灰オリーブ(5Y5/2) 粗砂であった。これらの堆積は通常の河川堆積物と思われ、また遺物の発見はなく、堤防などの遺構は確認できなかった。掘削範囲もコンクリート柱部分に限定されるため、工事を実施して支障ない旨を報告した。



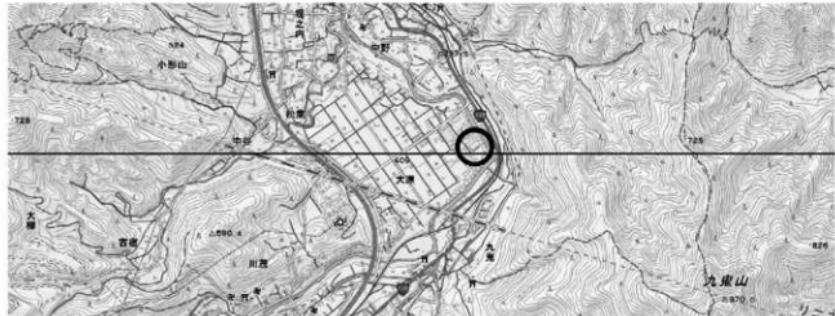
## 35 都留高等技術専門校校舎解体事業 立会 《沖大原遺跡》

所在地	都留市小形山1	調査期間	平成25年11月5日
担当者	村石眞澄	調査面積	2m <sup>2</sup>

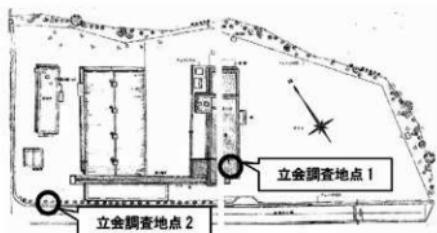
### 調査経緯及び事業内容と結果

周知の埋蔵文化財包蔵地である沖大原遺跡（散布地、縄文時代）の範囲が敷地に及ぶため、平成25年8月14日の産業人材課・学術文化財課・埋蔵文化財センターによる三者協議に基づき、解体工事に伴い立会調査を実施した。

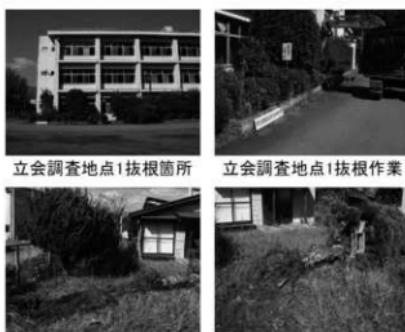
立木抜根作業は校舎等の建設による既掘範囲外に及ぶ可能性があるため、11月5日に立会調査を実施した。懸念された桜の大木については抜根を行わないことになり、建物周囲の小木の抜根作業の立会を行った。抜根作業は解体用のベンチ形の重機を利用していたため、掘削範囲は限定的であった。観察できた土層は、碎石・黄褐色土混じりの黒褐色土であり、既掘土範囲に根を張っていたものであることを確認した。遺構・遺物は確認できず、平成26年1月予定の解体工事の際に、再度の立会調査を行うこととした。



第1図 都留高等技術専門校校舎解体事業位置図



第2図 立会調査位置図



立会調査地点2抜根箇所

立会調査地点2抜根作業

## 36 県立北杜高等学校下水管及び下水樹改修事業 立会 《原町農業高校前遺跡》

所在地	北杜市長坂町塚川地内	調査期間	平成25年11月28日
担当者	田口明子	調査面積	3.5m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

平成25年11月に県立北杜高等学校より学術文化財課に緊急に下水管の取り換え工事をしたいと連絡があり、遺跡の有無を確認するために立会調柶を実施した。

耕番号40で下水漏れが発生していたため、下水管に沿って長さ約2.7m、幅約1.0mの範囲をミニバックホーで現地表からの深さ約1.2mまで掘削した。現地表から約0.15mは表土の山砂で覆われ、下層は現下水管を敷設した時の埋め土が約0.85m、その下に下水管を保護する山砂が約0.2m確認された。耕番号39では地上部に立ち上がる下水橋の蓋部分が破損していたため、下水管に沿って長さ約1.0m、幅約0.8mの範囲をミニバックホーで深さ約0.25m掘削した。耕番号40と同様に地表下約0.15mは山砂でその下層は下水管の埋め土を確認した。

今回の調柶地点では既堀範囲内の掘削だったため遺構・遺物ともに発見されなかった。以上により工事を継続しても埋蔵文化財には影響を与えないと考えられたため現地でその旨を伝えた。



第1図 県立北杜高等学校下水管及び下水樹改修事業位置図



第2図 立会調柶位置図

## 37 急傾斜地崩壊対策事業（南部町福土地内）立会《火打石遺跡》

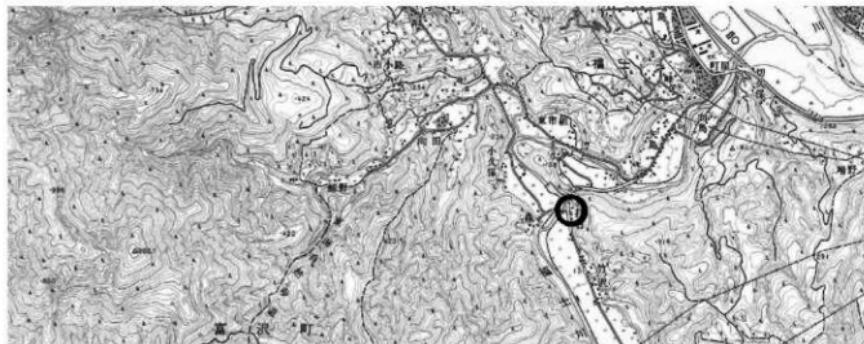
所在地	南部町福士23400	調査期間	平成25年5月7日
担当者	村石眞澄、由井正昭	調査面積	12m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

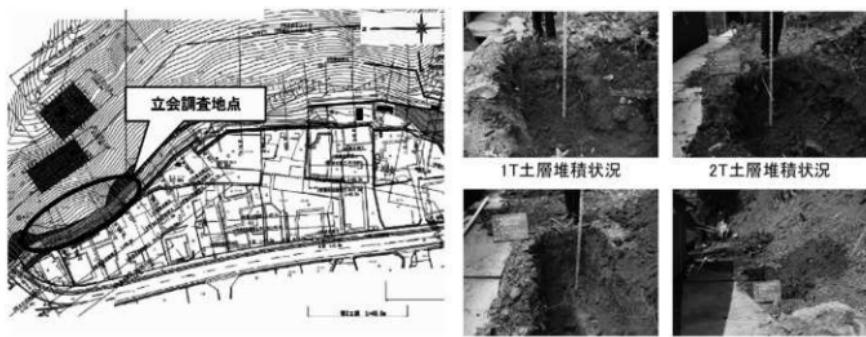
周知の埋蔵文化財泡蔵地である火打石遺跡（散布地、中世・近世）が事業予定地にあるため、立会調査を実施した。立会調査は、法面掘削作業に合わせて、三カ所にトレントを設定し埋蔵文化財の確認を行なった。今回の調査範囲は、事業予定地の北側の一部である。

1トレントは工事掘削深度の1.3mまで調査を行なった。以前に小屋が建っていた場所で搅乱が深かった。地山は大角礫～中角礫混じりの褐色（10YR4/4）砂質土。2トレントも工事掘削深度の1.3mまで調査を行なった。地山は大角礫～中角礫混じりの褐色（10YR4/4）砂質土、巨角礫を含む。3トレントは工事掘削深度の1.2mまで調査を行なった。地山は大角礫～中角礫混じりの褐色（10YR4/4）砂質土。調査地点は、福士川の河岸段丘と丘陵が接する場所で、地山は急斜面崩壊に由来する堆積物と福士川河川堆積物が混在しているものと推定される。

今回の立会調査では、遺構・遺物は確認できなかったので、今回の工事区間における埋蔵文化財の保護措置は必要がないと判断した。ただし、今回の調査地点の南側の工事対象範囲は、火打石遺跡範囲に含まれるため、別途埋蔵文化財の確認が必要である。



第1図 急傾斜地崩壊対策事業位置図



第2図 立会調査位置図

### 38 急傾斜地崩壊対策事業（南部町内船地内）立会《馬場道上遺跡》

所在地	南部町内船3941番地外	調査期間	平成25年6月7日
担当者	村石眞澄、由井正昭	調査面積	4m <sup>2</sup>

#### 調査経緯及び事業内容と結果

周知の埋蔵文化財包蔵地である馬場道上遺跡（散布地、縄文）が事業予定地の近隣にあるため、立会調査を実施した。立会調査は、法面上部の掘削工事の着手時に、バックホーにより掘削し、遺構・遺物の確認を行なった。地表から層厚10～20cmの表土（腐食土層）の下は、直ちに風化岩盤となっていた。表土は、小～大角礫混じりのにぶい黄褐色（10YR4/3）土であり、風化岩盤の内部の色調は灰色（10Y6/1）であるが、表面の風化面は黒褐色（2.5Y3/1）を呈している。法面下部はコンクリート擁壁が既に設置されており、これを設置する段階で法面上部を掘削整形したものと思われる。風化火山灰の堆積層もなく、今回の立会した工事区间における埋蔵文化財の保護措置は必要がないと判断される。

ただし、今回の工事区间に西側に連続する事业区间は、平坦地を含み遺構・遺物が発見される可能性が高いので、工事に先立って慎重な調査が必要である。



第1図 急傾斜地崩壊対策事業位置図



第2図 立会調査位置図

### 39 曽根丘陵公園（防災公園）整備事業 立会 《上の平遺跡他》

所在地	甲府市下向山町地内	調査期間	平成25年11月13日・12月2日
担当者	保坂康夫	調査面積	20m <sup>2</sup>

#### 調査経緯及び事業内容と結果

曾根丘陵公園は、風土記の丘公園とも呼ばれ、国指定史跡銚子塚古墳をはじめ、同じく国史跡の丸山塚古墳、大丸山古墳など、県内屈指の大形前期古墳である前方後円墳や円墳があり、上の平方形周溝墓群や東山北・南遺跡など、弥生時代末から古墳時代中期にかけての墳墓群が立地している。

県土整備部では、東北大震災以降に震災等の発生時に備えて自衛隊等の救援部隊の設営基地として使用可能な場所として、曾根丘陵公園を指定し、防災拠点として使用可能な設備の整備を計画し、平成24年度に引き続き実施した。その事業に伴い、今年度は曾根丘陵公園内の植樹の移転と、バーベキュー広場の給水設備増設について、立ち会い調査を実施した。

11月13日の立会調査は、バーベキュー広場で実施した。旧来の給水設備に隣接してもう1カ所増設するもので、小型重機によって1×1mの範囲を掘削した（地点A）。この地点の付近には、方形周溝墓が埋設保存されているため、埋め立て層以内の施工を指導する必要があるため、慎重に80cmの予定深度までの掘削を進めた。しかし、その予定深度では、埋め立て層である碎石層であったため、遺構の上面の状況確認のため、さらに深度を深めたところ、地表下90cmで遺構保護メッシュに到達した。遺構保護メッシュは、黒色の樹脂をコーティングした5cmマス目の金網で、黒色土層の上面に直接、埋設されていた。その状況を確認し、予定深度では影響ないとして、工事の実施を指示した。

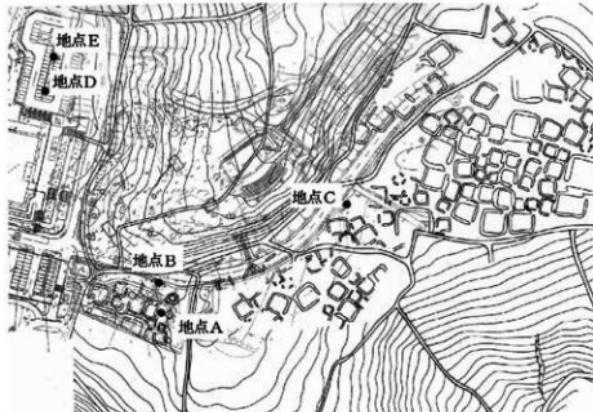
また、そこからの上水管配管は、保存遺構に影響ないように、バーベキュー広場北側縁にある歩道に埋設するよう指導し、その部分の掘削を行った（地点B）。深度80cmで黄褐色粘土質山土層が露出した。本来、この地域にはローム層が発達しているが、ローム層はすぐではなく、その下位に位置づけられる土層である。しかも、その土層を掘り込んですでに管が敷設されており、その管を敷設溝内に配管するように指示した。

さらに、その南側の道路脇で、既設の表示板を移設するため、広さ1×2m、深度60cmの掘削の立ち会い調査と、道路に沿った地点の管理設のための立ち会い調査の2カ所を実施した（地点C）。この掘削範囲では、埋め土層である軟質粘土しか現れなかったので、その範囲での掘削施工を指示した。

12月2日は、研修センター北側駐車場での2本の植樹の移設作業である。植樹の根が張った深度である50cmの掘削を行ったが、埋め土層の軟質粘土のみだったので、その範囲での掘削施工を指示した（地点D・E）。



第1図 曽根丘陵公園（防災公園）整備事業位置図



第2図 立会調査位置図



地点A掘削状況



地点A完掘状況



地点A遺構保護メッシュ



地点B掘削状況



地点B完掘状況



地点C掘削状況



地点C掘削状況



地点D掘削状況



地点E掘削状況

## 40 銚子塚古墳隣接地民家建設 立会

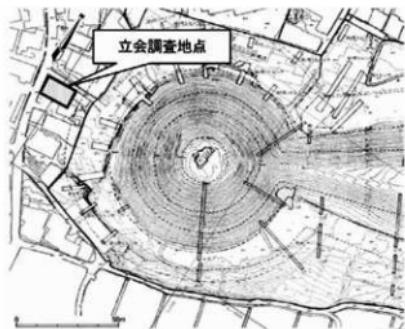
所在地	甲府市下曾根町809-2	調査期間	平成25年5月10日
担当者	村石真澄、由井正昭、小林健二（以上埋文センター）、佐々木満、鷹野義朗（以上甲府市教委）	調査面積	256m <sup>2</sup>

### 調査経緯及び事業内容と結果

建物基礎工事について学術文化財課からの連絡を受け、甲府市教委と立会調査を行なった。工事は建物の東側の基礎部分の掘削で、地表下40cmで地山が確認された。地山は明黄褐色(10YR7/6)砂質シルトで暗赤褐色(5YR3/6)の酸化鉄と思われる斑紋が認められる。立会地点の敷地北側の路地は周溝に向かって傾斜しており、銚子塚古墳の周溝の外縁が現在の宅地の下に伸びていることが推定されている地点である。この地山の確認により、この部分が銚子塚古墳の周溝外であることが確認された。史跡範囲の周囲が周知の遺跡範囲になっていないため、遺跡範囲の拡大、指定範囲の拡大を実施していく必要がある。



第1図 銚子塚古墳隣接地民家建設位置図



第2図 立会調査位置図



掘削状況1



掘削状況2



土層堆積状況1



土層堆積状況2

# 報告書抄録

ふりがな	やまなしけんないぶんぶちょうさはうこくしょ
書名	山梨県内分布調査報告書（平成25年）
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	297集
編著者名	網倉邦生
発行者	山梨県教育委員会
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 Tel 055-266-3016
発行年月日	2014年3月25日

事業名・道綱名	所在地	調査面積	調査対象面積	調査期間
1 中部繩断白鳥寺道建設事業	身延町和田字石舟沢243等地内	42m <sup>2</sup>	750m <sup>2</sup>	平成25年2月8日～12日
2 中部繩断白鳥寺道建設事業（足の浜遺跡、足の浜古跡）	身延町曾根字御門の浜121等地内	239m <sup>2</sup>	3,636m <sup>2</sup>	平成25年2月22日～3月1日
3 中部繩断白鳥寺道建設事業	身延町和田字平林576-1-140等地内	308.3m <sup>2</sup>	11,098m <sup>2</sup>	平成25年3月4日～18日
4 中部繩断白鳥寺道建設事業	身延町角川地内	8m <sup>2</sup>	427m <sup>2</sup>	平成25年3月8日
5 中部繩断白鳥寺道建設事業	南都田町上字矢張271等地内	185m <sup>2</sup>	4,800m <sup>2</sup>	平成25年6月17日～18日・24日～27日
6 中部繩断白鳥寺道建設事業	南都田町上字平野289等地内	29m <sup>2</sup>	963m <sup>2</sup>	平成25年6月27日
7 中部繩断白鳥寺道建設事業	身延町和田字平林568等地内	211m <sup>2</sup>	16,000m <sup>2</sup>	平成25年7月2日～26日
8 中部繩断白鳥寺道建設事業	南都田町169m <sup>2</sup>	64m <sup>2</sup>	64m <sup>2</sup>	平成25年8月5日～6日
9 第次スマートインターチェンジ建設事業	鎌吹市八幡山南林内	20m <sup>2</sup>	200m <sup>2</sup>	平成25年12月9日～12日
10 国道41号（足バイパス）建設事業（足守地震跡）	大月市花房字堂前121等	62m <sup>2</sup>	2,000m <sup>2</sup>	平成25年7月22日～25日
11 国道41号新潟事務所新潟地区	新潟市西蒲原町休憩1555等地	73m <sup>2</sup>	800m <sup>2</sup>	平成25年5月27日～28日・6月12日
12 国道10号緊急整備事業	甲府市中央2丁目	9m <sup>2</sup>	200m <sup>2</sup>	平成25年8月5日～9日
13 国道41号見附見附新設事業（足ノ浜～第4遺跡、宮本遺跡）	湯瀬町舟見町遺跡2717等地	19m <sup>2</sup>	126m <sup>2</sup>	平成25年9月18日・10月9日
14 甲府市方接駆別施設体化事業（甲府城下町遺跡）	甲府市中央一丁目11-8	44m <sup>2</sup>	430m <sup>2</sup>	平成25年7月18日～26日
15 リリーフ見附シーターチェンジ建設事業	郡上市川上町字裏保502等地内	68m <sup>2</sup>	9,713m <sup>2</sup>	平成25年4月18日
16 犀ヶ淵古墳群地盤改良整備事業	鎌吹市御内二・三吉字手宝250等地内	9m <sup>2</sup>	9m <sup>2</sup>	平成25年1月28日
17 犀ヶ淵古代出土地跡地盤整備事業（足守遺跡）	鎌吹市八代町南165等地内	8m <sup>2</sup>	8m <sup>2</sup>	平成25年12月20日
18 雷垣丘陵公園（防災公園）整備事業（上の平遺跡）	甲府市下曾根町923等地内	74m <sup>2</sup>	1,100m <sup>2</sup>	平成25年1月21日～23日～25日
19 中部繩断白鳥寺道建設事業	身延町角川地内	16.8m <sup>2</sup>	940m <sup>2</sup>	平成25年9月6日
20 国道41号古中間狭茂尾根緑化改良事業（甲府城下町遺跡）	甲府市中央2丁目、御丁目等地内	140.4m <sup>2</sup>	140.4m <sup>2</sup>	平成25年5月21日～24日・26日～28日・6月2日～5日・平成25年11月6日～10日・11日・12日・13日・15日・21日
21 国道41号新潟事務所新潟地区	新潟市西蒲原町休憩地内	31m <sup>2</sup>	100m <sup>2</sup>	平成25年9月18日～26日・10月21日
22 甲府市方接駆別施設体化事業（谷村城跡）	郡上市川上町二丁目1-1	10m <sup>2</sup>	10m <sup>2</sup>	平成25年10月10日・11日・21日
23 山梨県合意形成化等整備事業（理設監工事）（甲府城跡）	甲府市丸の内一丁目6-1	28.15m <sup>2</sup>	28.15m <sup>2</sup>	平成25年4月22日～27日
24 山梨県合意形成化等整備事業（理設監工事）（甲府城跡）	甲府市丸の内一丁目6-1	131m <sup>2</sup>	131m <sup>2</sup>	平成25年5月21日～6月5日
25 山梨県合意形成化等整備事業（理設監工事）（甲府城跡）	甲府市丸の内一丁目6-1	7m <sup>2</sup>	7m <sup>2</sup>	平成25年6月14日～15日
26 山梨県合意形成化等整備事業（シホルツリ一耕）（甲府城跡）	甲府市丸の内一丁目6-1	10m <sup>2</sup>	10m <sup>2</sup>	平成25年6月18日
27 山梨県合意形成化等整備事業（理設監工事）（甲府城跡）	甲府市丸の内一丁目6-1	216m <sup>2</sup>	216m <sup>2</sup>	平成25年7月9日～8月1日
28 山梨県合意形成化等整備事業（理設監工事）（甲府城跡）	甲府市丸の内一丁目200	80m <sup>2</sup>	80m <sup>2</sup>	平成25年10月29日～30日
29 山梨県合意形成化等整備事業（理設監工事）（甲府城跡）	甲府市丸の内一丁目828等地内	11m <sup>2</sup>	11m <sup>2</sup>	平成25年3月9日
30 山梨県警察本部通信施設整備事業（甲府城跡）	甲府市丸の内一丁目6-1	6m <sup>2</sup>	6m <sup>2</sup>	平成25年8月10日
31 舞鶴橋南立ち上げ宮路復活事業（甲府城跡）	甲府市丸の内一丁目地内	5m <sup>2</sup>	5m <sup>2</sup>	平成25年3月21日～22日
32 東北総合開拓高校建設事業（／＼側溝）	郡上市下5-7-1等地内	94m <sup>2</sup>	116m <sup>2</sup>	平成25年3月11日～13日・18日
33 東部地域総合開拓高校建設事業（／＼側溝）	郡上市下5-7-1等地内	45m <sup>2</sup>	45m <sup>2</sup>	平成25年4月30日・6月13日・7月6日～17日
34 県立白根高等学校第一グランクラードアーチ張替事業	アルプス市上山市上諏訪町中河原850-1	5m <sup>2</sup>	5m <sup>2</sup>	平成25年10月8日
35 篠原高等技術専門学校合併事業（中央空港跡）	郡上市小糸山	2m <sup>2</sup>	2m <sup>2</sup>	平成25年11月5日
36 基立北高島高等学校下水普及及び下水道改築事業（原町農業高校前遺跡）	北杜市長坂町原地内	3.5m <sup>2</sup>	3.5m <sup>2</sup>	平成25年11月28日
37 志紀野地堀津付帯事業（南部町福士地内）（火打石遺跡）	南都田町上2400	12m <sup>2</sup>	12m <sup>2</sup>	平成25年5月7日
38 志紀野地堀津付帯事業（南部町内地内）（火打石遺跡）	南都田町内地9641番地内	4m <sup>2</sup>	4m <sup>2</sup>	平成25年6月7日
39 雪原丘陵公園（防災公園）整備事業（上の平遺跡）	甲府市下山田町地内	20m <sup>2</sup>	20m <sup>2</sup>	平成25年11月13日～14日・12月2日
40 犀子每塙跡地接続土塁建築建設	甲府市下曾根町809-2	256m <sup>2</sup>	256m <sup>2</sup>	平成25年5月10日

## 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第297集 山梨県内分布調査報告書（平成25年）

印刷日 2014（平成26）年3月20日

発行日 2014（平成26）年3月25日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923

Tel 055-266-3016 Fax 055-266-3882

発行 山梨県教育委員会

印刷所 株式会社 峠南堂印刷所